

子ども・プロセス展示室（情報ライブラリーを含む）（1 階）

1. 「平和の礎」を考えるコーナー

【展示のねらい】

「平和の礎」から沖縄戦について学ぶとともに、平和を尊重する“沖縄のこころ”を考える機会を提供する。
また「平和の礎」と当館を往還するきっかけを提供し、来館者がより深く戦争や平和について考えることをねらいとする。

2. 現在の戦争や紛争について考えるコーナー

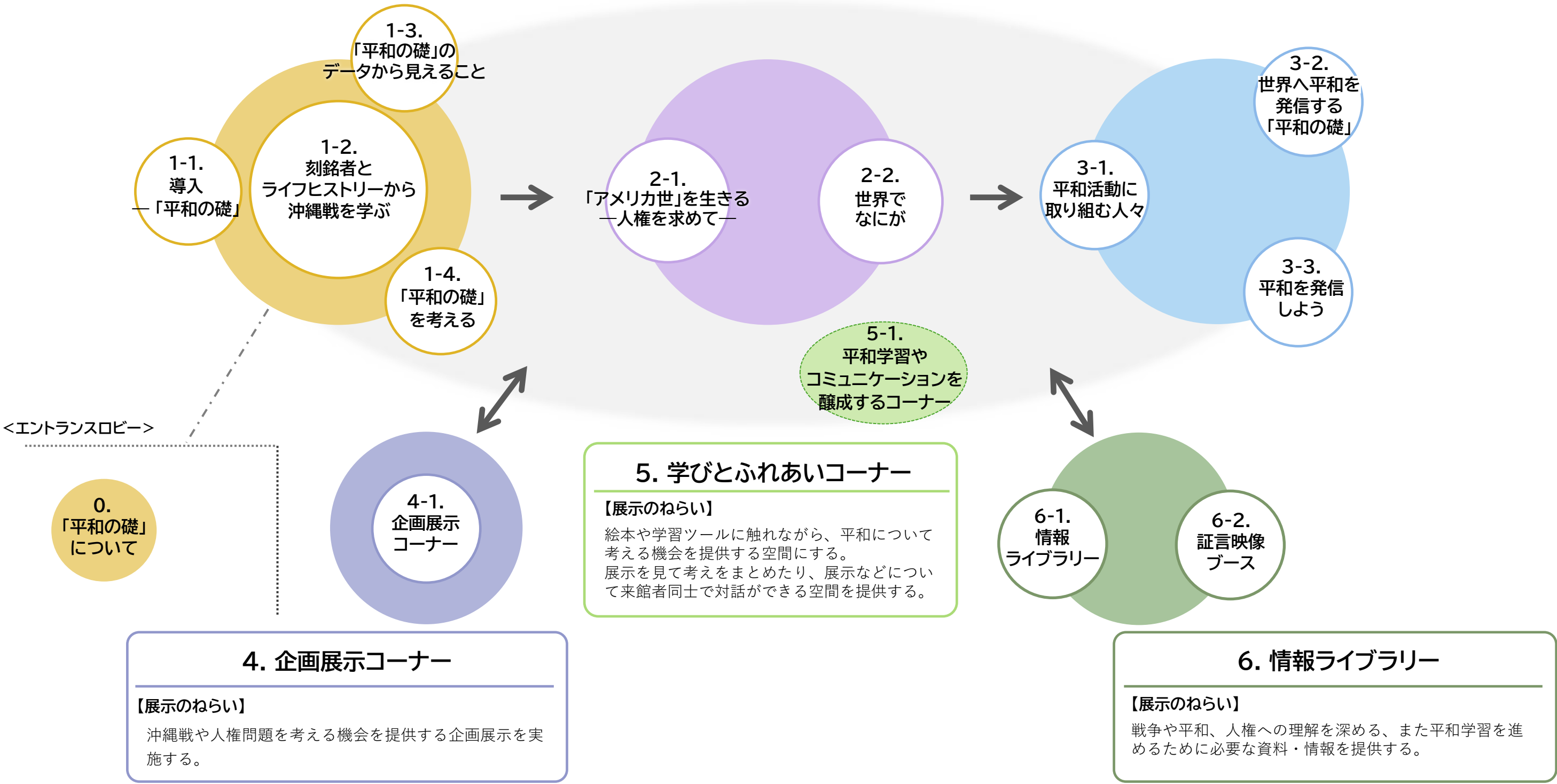
【展示のねらい】

現在もつづく世界の戦争・紛争や、沖縄と世界各地の戦争・紛争のつながりを学び、戦争と人権について考える。

3. 平和創造を考えるコーナー

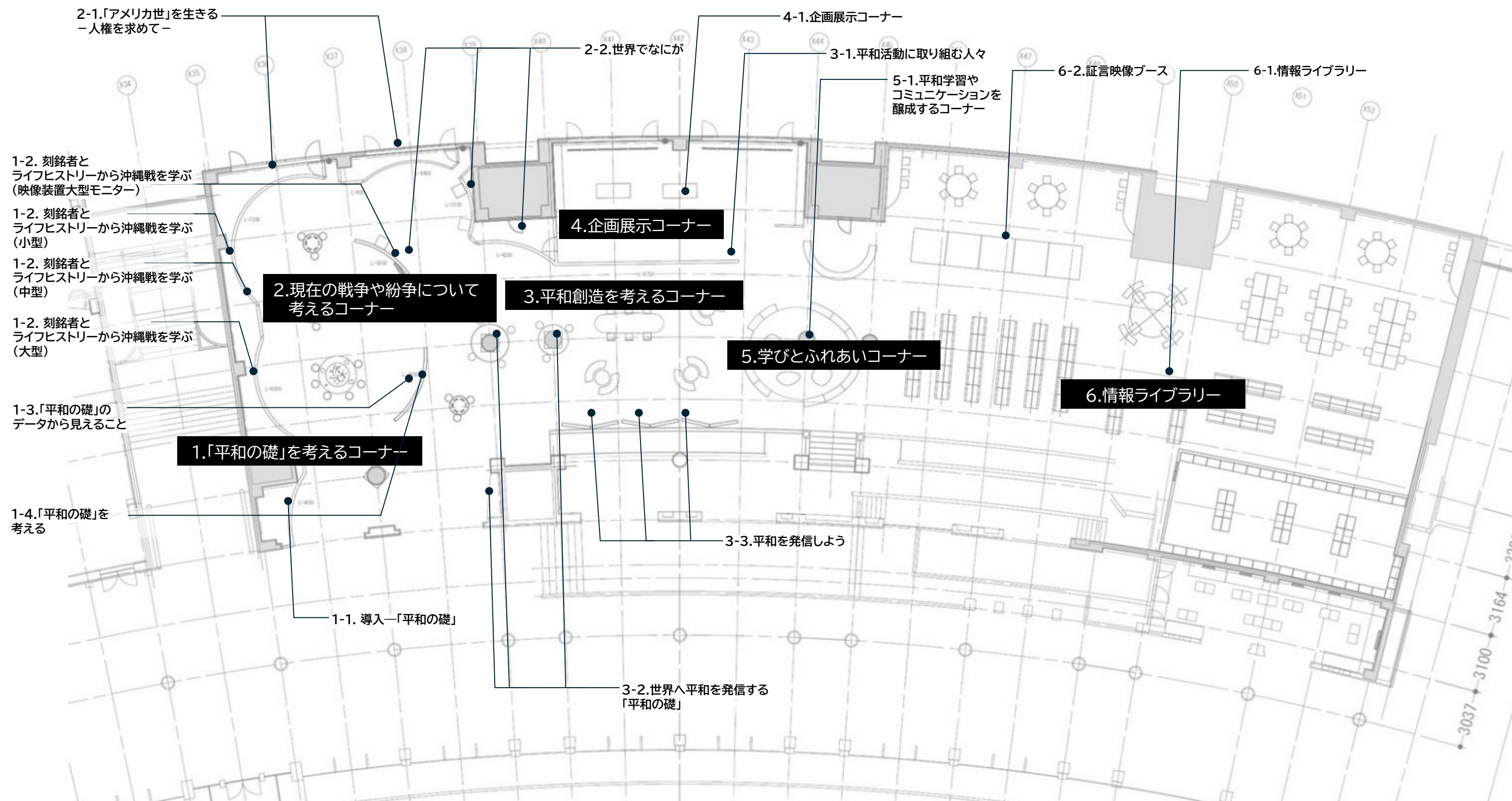
【展示のねらい】

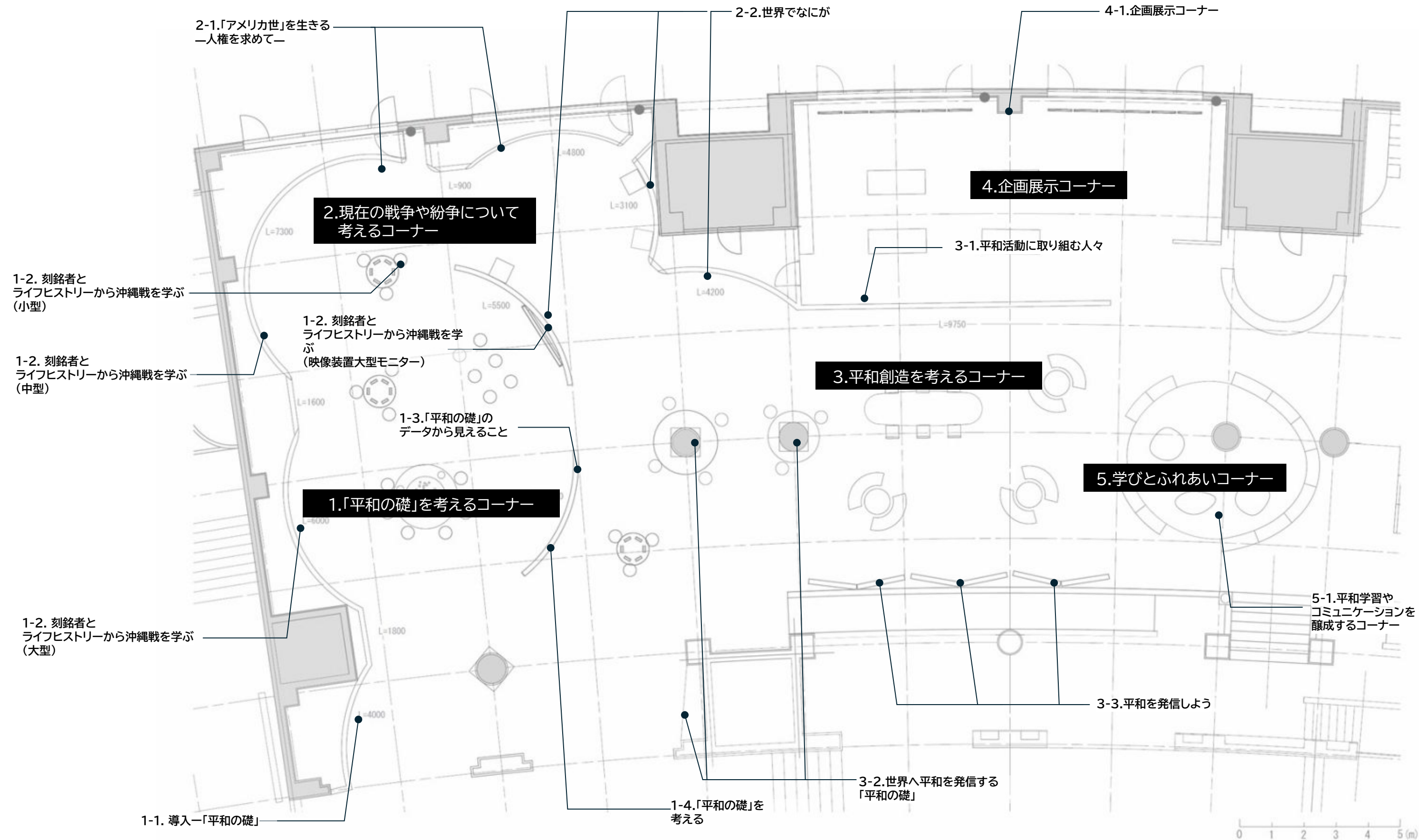
平和構築や人権保障のために活動している人々の取り組みを紹介し、平和を創る意識を醸成する。

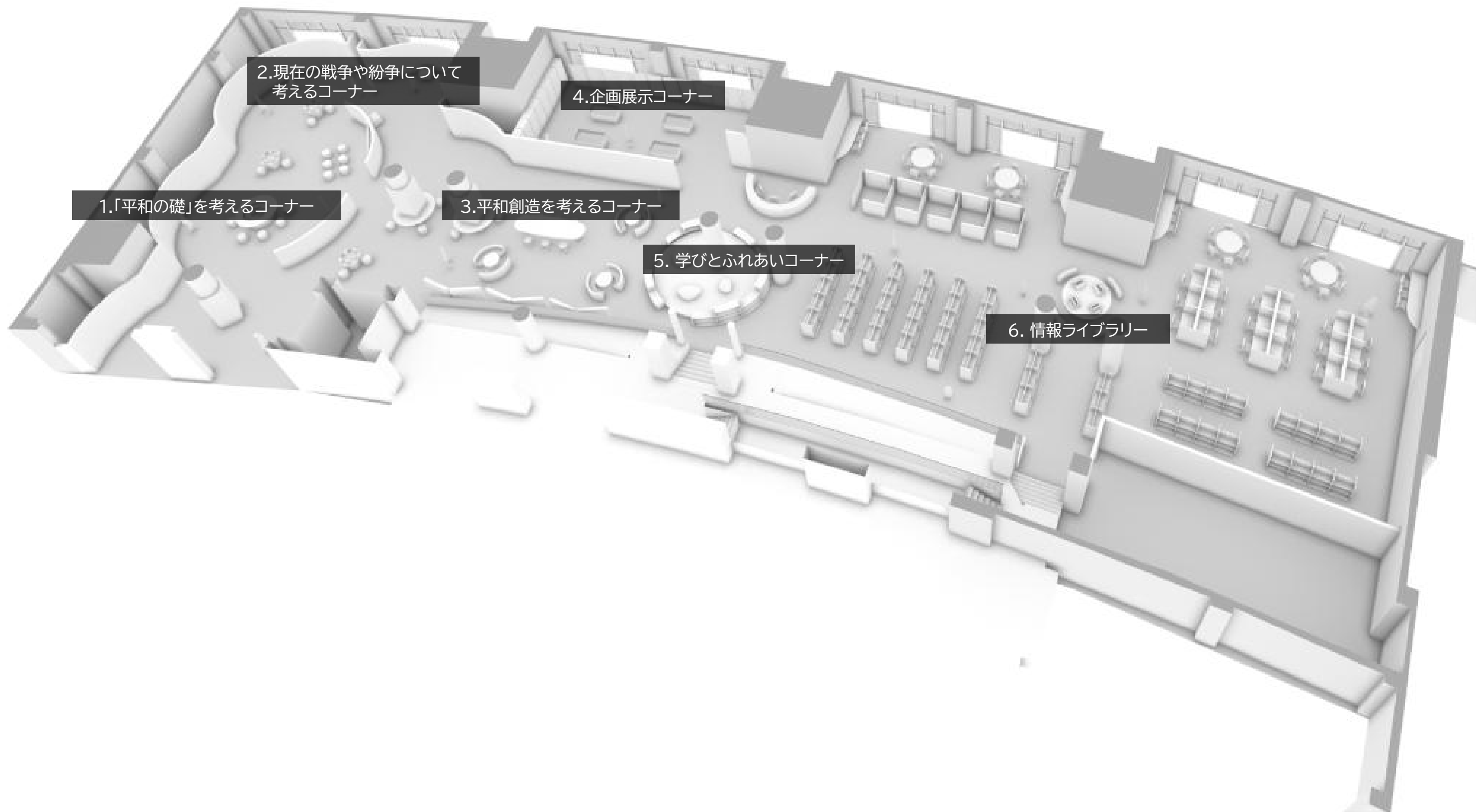


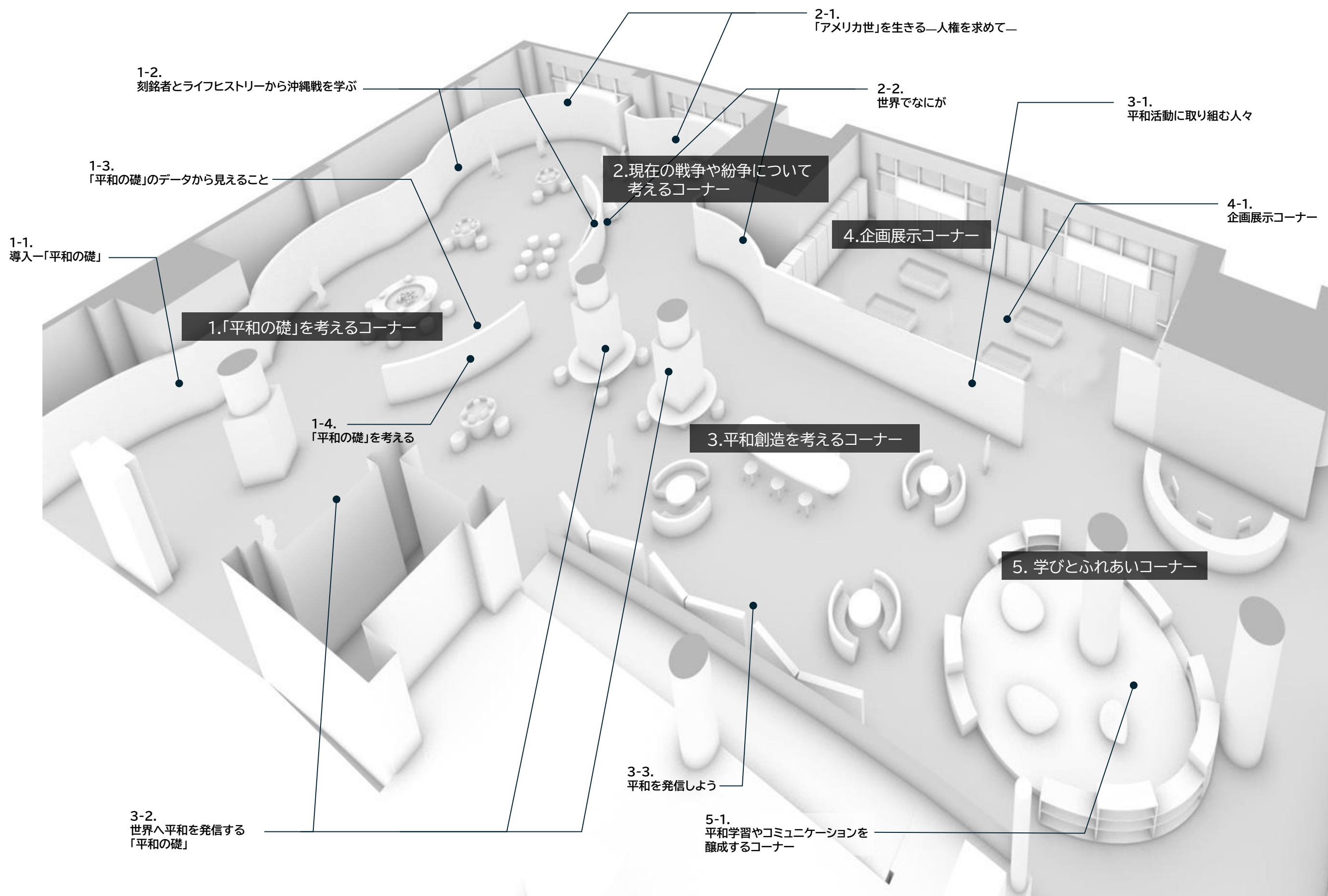
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
子ども・プロセス展示室	「平和の礎」を主軸に平和と人権について考える。	0.「平和の礎」について ※エントランスロビー	「平和の礎」が見える場所で、「平和の礎」についての問いかけや「平和の礎」と資料館を往還するきっかけを提供する。	0-1.「平和の礎」について	ー	0-1-① 「平和の礎」に対する問いかけ 0-1-② 「平和の礎」と資料館のつながり	グラフィック・映像装置	
		1.「平和の礎」を考えるコーナー	「平和の礎」から沖縄戦について学ぶとともに、平和を尊重する“沖縄のこころ”を考える機会を提供する。また「平和の礎」と当館を往還するきっかけを提供し、来館者がより深く戦争や平和について考えることをねらいとする。	1-1.導入ー「平和の礎」	「平和の礎」を訪れる様々な人々（追悼する人、学習する人など）の様子を見せ、「平和の礎」とは何か、何を伝えているのか、ということを問う。	1-1-① 「平和の礎」を訪れる人々の様子や、「平和の礎」とは何かという問いかけ	グラフィック	「平和の礎」を訪れる人々の写真、「平和の礎」の刻銘など
				1-2.刻銘者とライフヒストリーから沖縄戦を学ぶ	「平和の礎」に刻銘されている人々が、どのような人で、戦争によってどのように人権が侵害され、亡くなったのかを伝え、自分事として沖縄戦を捉え、その特徴などを考えてもらう。	1-2-① 刻銘者のライフヒストリー 建設趣旨、基本理念や沖縄戦の特徴などが考えられるライフヒストリーの事例	グラフィック・映像装置・資料	「平和の礎」の刻銘者、その関係者のライフヒストリー
				1-3.「平和の礎」のデータから見えること	「平和の礎」の刻銘者のデータから、沖縄県民の犠牲の特徴を考え、あるいは疑問を持ってもらう。	1-3-① 「平和の礎」の刻銘者のデータから沖縄戦を考える	グラフィック・映像装置・模型	「平和の礎」の刻銘者のデータから分析された図解など
				1-4.「平和の礎」を考える	「平和の礎」の建設趣旨や基本理念、デザインの意味などを伝える。	1-4-① 建設趣旨、基本理念、デザインコンセプト 1-4-② 刻銘者と刻銘されていない人々	グラフィック	「平和の礎」の建設趣旨や基本理念についての解説パネルなど
		2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー	現在もつづく世界の戦争・紛争や、沖縄と世界各地の戦争・紛争のつながりを学び、戦争と人権について考える。	2-1.「アメリカ世」を生きるー人権を求めてー	戦後の米国統治下では沖縄の人々の人権が制限され、沖縄戦後も「人間の安全保障」が脅かされたことを伝える。在沖米軍基地が朝鮮半島、ベトナムや中東など、世界の戦争と関係したことなど、沖縄が世界の戦争とつながっていることを伝える。	2-1-① 沖縄の人々が辿った戦後のライフヒストリー 2-1-② 沖縄とつながる世界の戦争・紛争	グラフィック	沖縄戦の影響、戦後沖縄の課題などが考えられるライフヒストリーなど
				2-2.世界でなにが	世界で起きた（起きている）戦争・紛争、差別などの人権問題などは、人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。人々の相互不信や偏見は、戦時下ではない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。	2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題 2-2-② 沖縄・日本に存在する人権問題	グラフィック・模型・資料	世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフヒストリーなど

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.平和創造を考えるコーナー	平和構築や人権保障のために活動している人々の取り組みを紹介し、平和を創る意識を醸成する。	3-1.平和活動に取り組む人々	世界各地の戦争・紛争地で平和構築活動を行っている人の取り組みなどを伝え、戦争・紛争は終わらせることができることを伝える。 沖縄など国内で平和構築や人権問題解決に取り組む人々を取り上げ、平和を創る意欲を高めてもらう。 国内外の平和博物館及び関連施設を紹介し、平和等に関する学習意欲を深める契機にしてもらう。	3-1-① 国内外で平和活動を行っている人々について 3-1-② 沖縄など国内で平和活動をしている人々について 3-1-③ 国内外の平和博物館及び関連施設	グラフィック	主に沖縄平和賞受賞者に関する資料、県内・国内外の平和博物館関連施設に関する資料など
				3-2.世界へ平和を発信する「平和の礎」	戦争の要因のひとつである相互不信や差別、分断と「平和の礎」の建設趣旨・基本理念を照らし合わせ、「平和の礎」が何を伝えているのか、「平和の礎」を通して、現在の課題を克服する道筋を考えてもらう。	3-2-① 「平和の礎」の理念や課題を振り返り、未来の平和創造に向けて可能性を考える	グラフィック	「平和の礎」に対するこれまでの意見、来館者のメッセージ
				3-3.平和を発信しよう	県内の子どもたちの平和について発信している活動を伝え、来館者に平和を発信する意識を醸成してもらう。	3-3-① 平和を創造する意思表示等を何らかのアクションで発信する	グラフィック・資料	児童・生徒の平和メッセージ展の作品
		4.企画展示コーナー	沖縄戦や人権問題を考える機会を提供する企画展示を実施する。	4-1.企画展示コーナー	沖縄戦や人権問題を考える機会を提供する企画展示を実施する。	4-1-① 子ども対象の沖縄戦や人権問題、国際理解をテーマとした企画展	グラフィック・資料	ー
		5.学びとふれあいコーナー	絵本や学習ツールに触れながら、平和について考える機会を提供する空間にする。 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。	5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー	絵本や学習ツールに触れながら、平和について考える機会を提供する空間にする。 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。	5-1-① 多様な国々・世界の子どもたち 5-1-② 沖縄の戦争遺跡や世界の戦争・紛争のマップ 5-1-③ 平和を考える絵本 5-1-④ 来館者のふれあい（メッセージ等）	グラフィック・映像装置・資料・模型	現在の「せかいの子どもたち」のケース内展示物、平和に関する絵本など
		6.情報ライブラリー	戦争や平和、人権への理解を深める、また平和学習を進めるために必要な資料・情報を提供する。	6-1.情報ライブラリー	戦争や平和、人権への理解を深める。また平和学習を進めるために必要な資料・情報を提供する。	6-1-① 書籍の充実 6-1-② 利用しやすい書架の配列（こども図書ライブラリー） 6-1-③ 書庫の充実 6-1-④ 学習スペースの充実	資料	図書資料、閲覧台、収納スペースなど
				6-2.証言映像ブース	当館が所蔵する多数の証言を閲覧し、常設展示の理解を深められるようにする。	6-2-① 映像機器の更新	映像装置	証言の映像など









0.「平和の礎」について

0-1.「平和の礎」について

【展示のねらい】

- ・「平和の礎」が見える場所で、「平和の礎」についての問いかけや「平和の礎」と資料館を往還するきっかけを提供する。

【展示の展開方針】

- ・「平和の礎」への問いかけや「平和の礎」と資料館をつなぐ解説を設置。
- ・追加刻銘のデータや基本情報などはデジタル機器を使用することを検討。
- ・デジタル機器を使用する場合は、アクセシビリティを考慮する。



- ・0-1-① 「平和の礎」に対する問いかけ
- ・0-1-② 「平和の礎」と資料館のつながり
グラフィック・映像装置

1.「平和の礎」を考えるコーナー

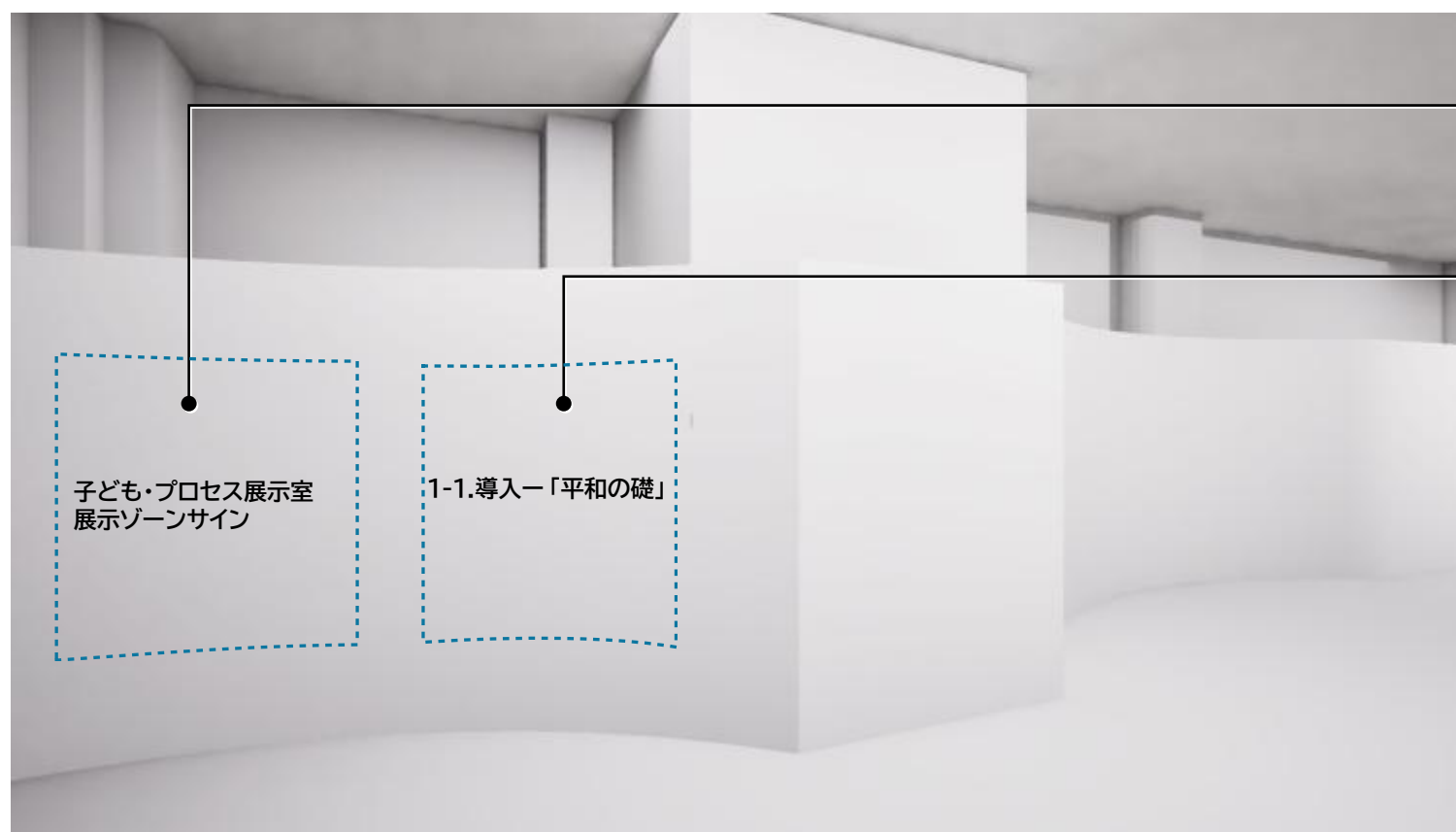
1-1.導入―「平和の礎」

【展示のねらい】

- ・「平和の礎」を訪れる様々な人々(追悼する人、学習する人など)の様子を見せ、「平和の礎」とは何か、何を伝えているのか、ということを問う。

【展示の展開方針】

- ・ 問いかけなど文字を少なくし、イラストや写真などのグラフィックを主にする。
- ・ 「平和の礎」に関する問いかけ展示により、展示室とのつなぎ・導入とする。



グラフィック

- ・ 1-1-① 「平和の礎」を訪れる人々の様子や、「平和の礎」とは何かという問いかけグラフィック
(「平和の礎」を訪れる人々の写真、「平和の礎」の刻銘など)

1.「平和の礎」を考えるコーナー

1-2.刻銘者とライフヒストリーから沖縄戦を学ぶ

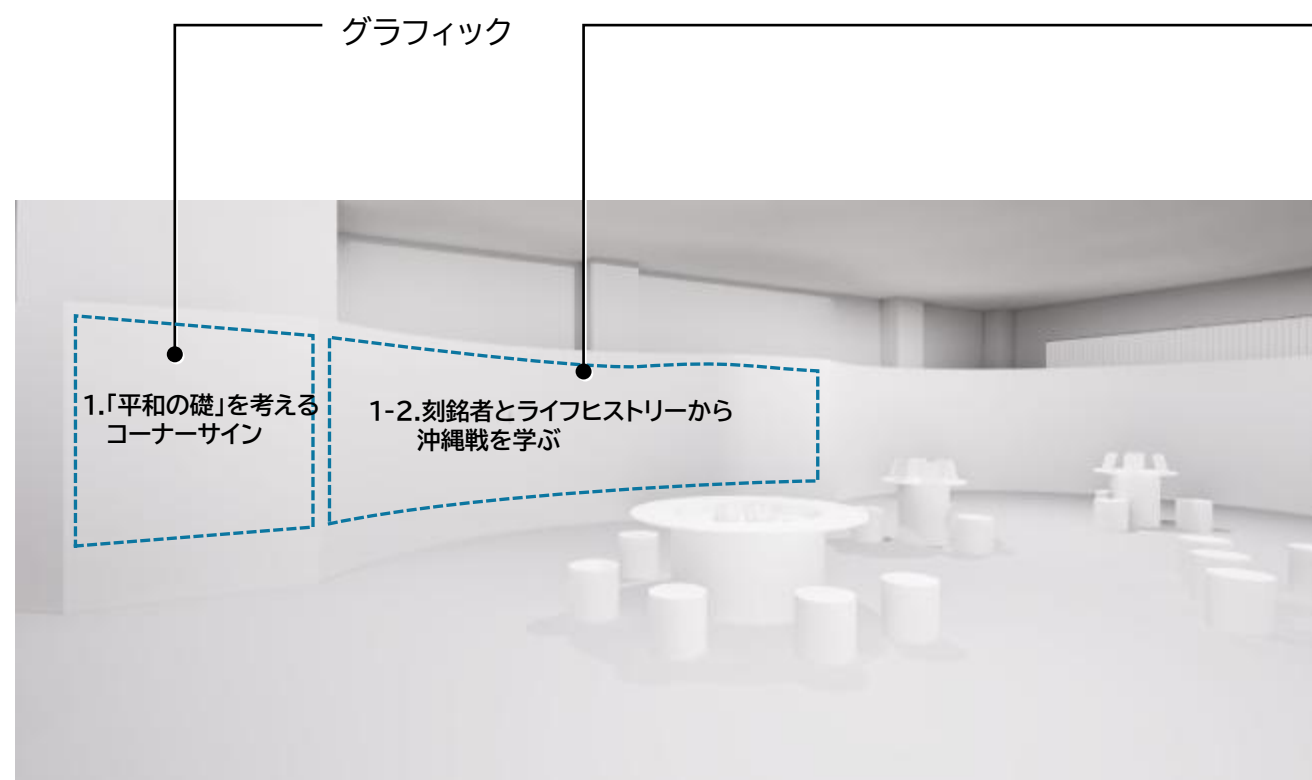
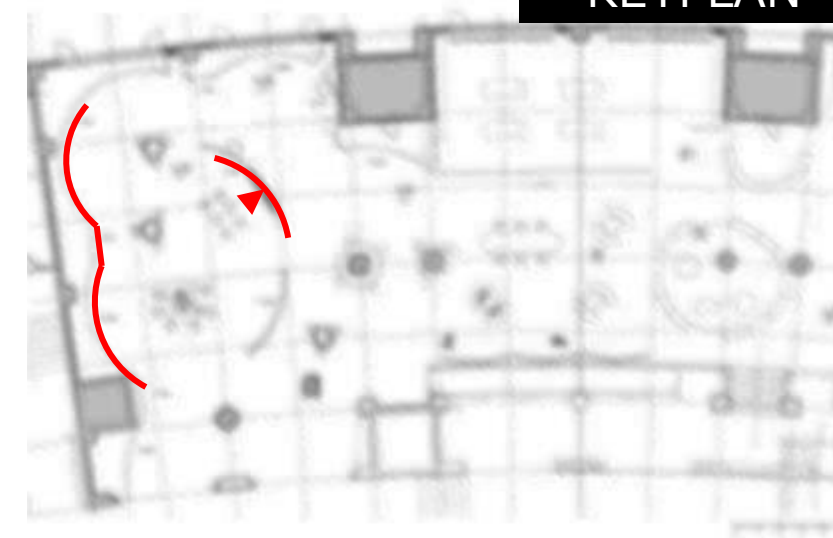
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」に刻銘されている人々が、どのような人で、戦争によってどのように人権が侵害され、亡くなったのかを伝え、自分事として沖縄戦を捉え、その特徴などを考えてもらう。

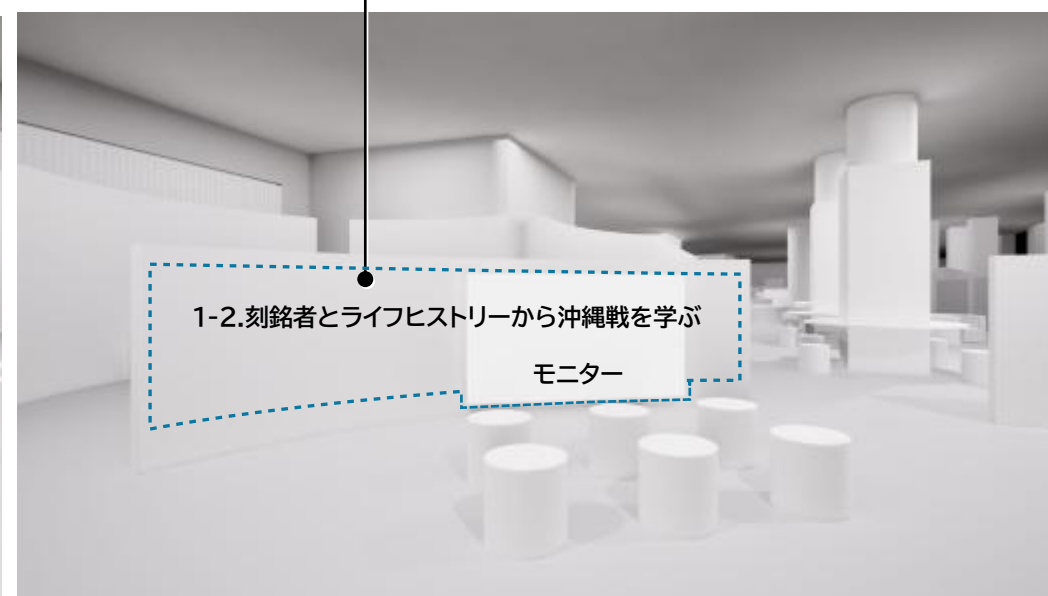
【展示の展開方針】

- ・ 大型パネルで刻銘者のライフヒストリーを1人(1家族)描く。
- ・ モニターで、ライフヒストリーのアニメーションを上映し、幅広い年齢層に伝えられるようにする。
- ・ 小型パネルでは、多くの刻銘者のライフヒストリーを取り上げる。
- ・ 沖縄戦の多様な実相を伝えるため、可変的な展示とする。

KEYPLAN



- ・ 1-2-① 刻銘者のライフヒストリー
建設趣旨、基本理念や沖縄戦の特徴などが考えられるライフヒストリーの事例
グラフィック・映像装置・資料
(「平和の礎」の刻銘者、その関係者のライフヒストリー)



1.「平和の礎」を考えるコーナー

1-3.「平和の礎」のデータから見えること

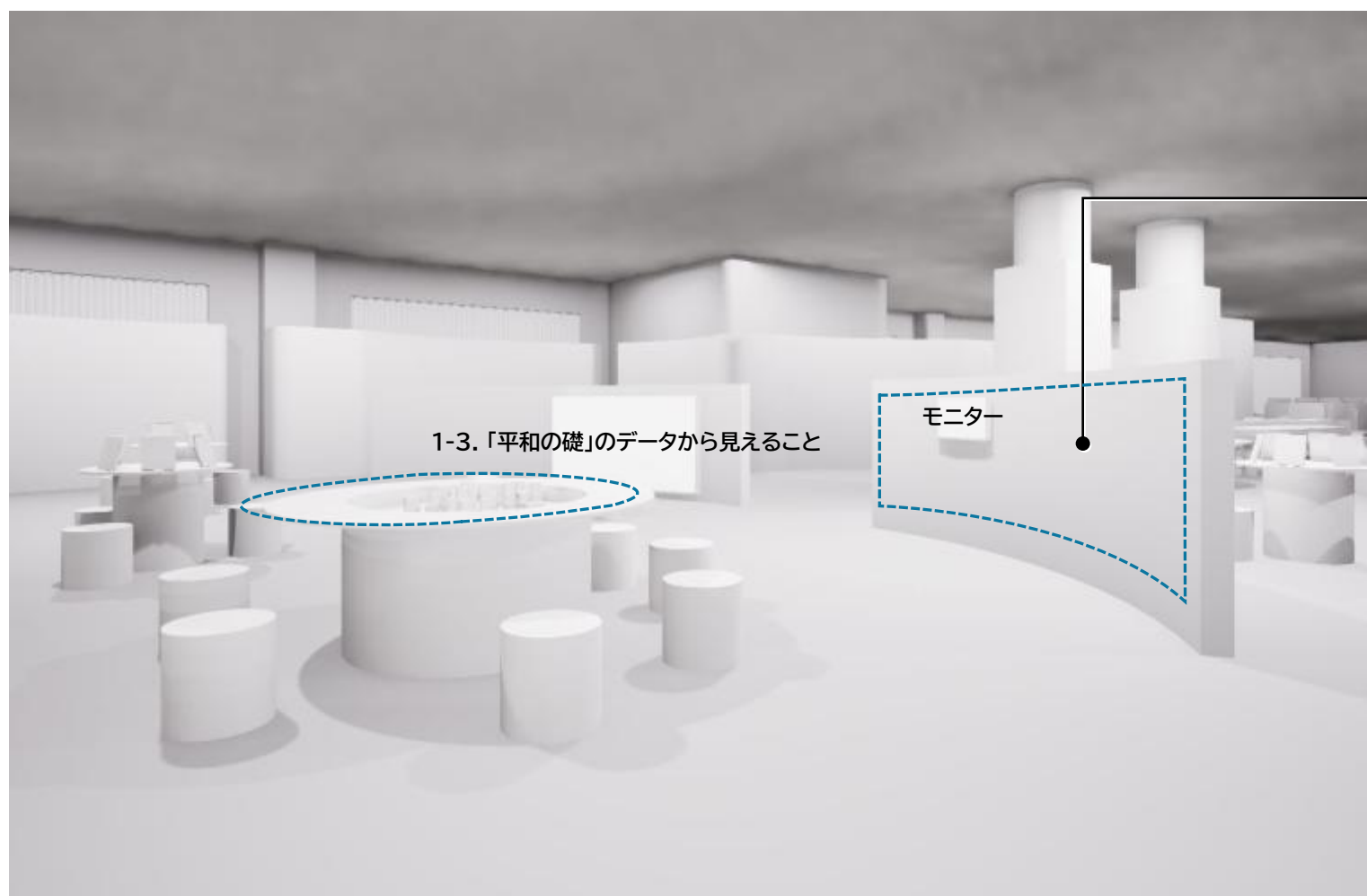
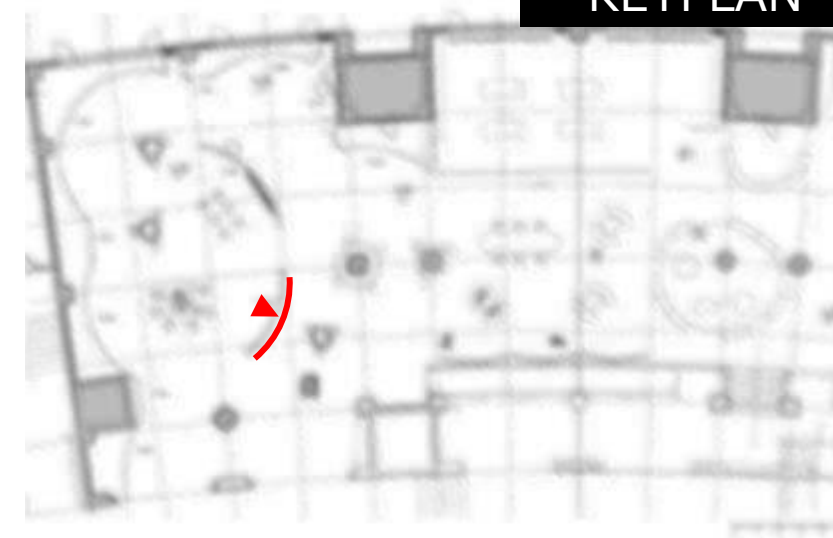
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」の刻銘者のデータから、沖縄県民の犠牲の特徴を考え、あるいは疑問を持ってもらう。

【展示の展開方針】

- ・「平和の礎」の刻銘者データをグラフ化して展示する。
- ・ブロックなどハンズオンの装置を利用して、戦没地マッピングを行う。

KEYPLAN



- ・1-3-① 「平和の礎」の刻銘者のデータから沖縄戦を考える
グラフィック・映像装置・模型
(「平和の礎」の刻銘者のデータから分析された図解など)

1.「平和の礎」を考えるコーナー

1-4.「平和の礎」を考える

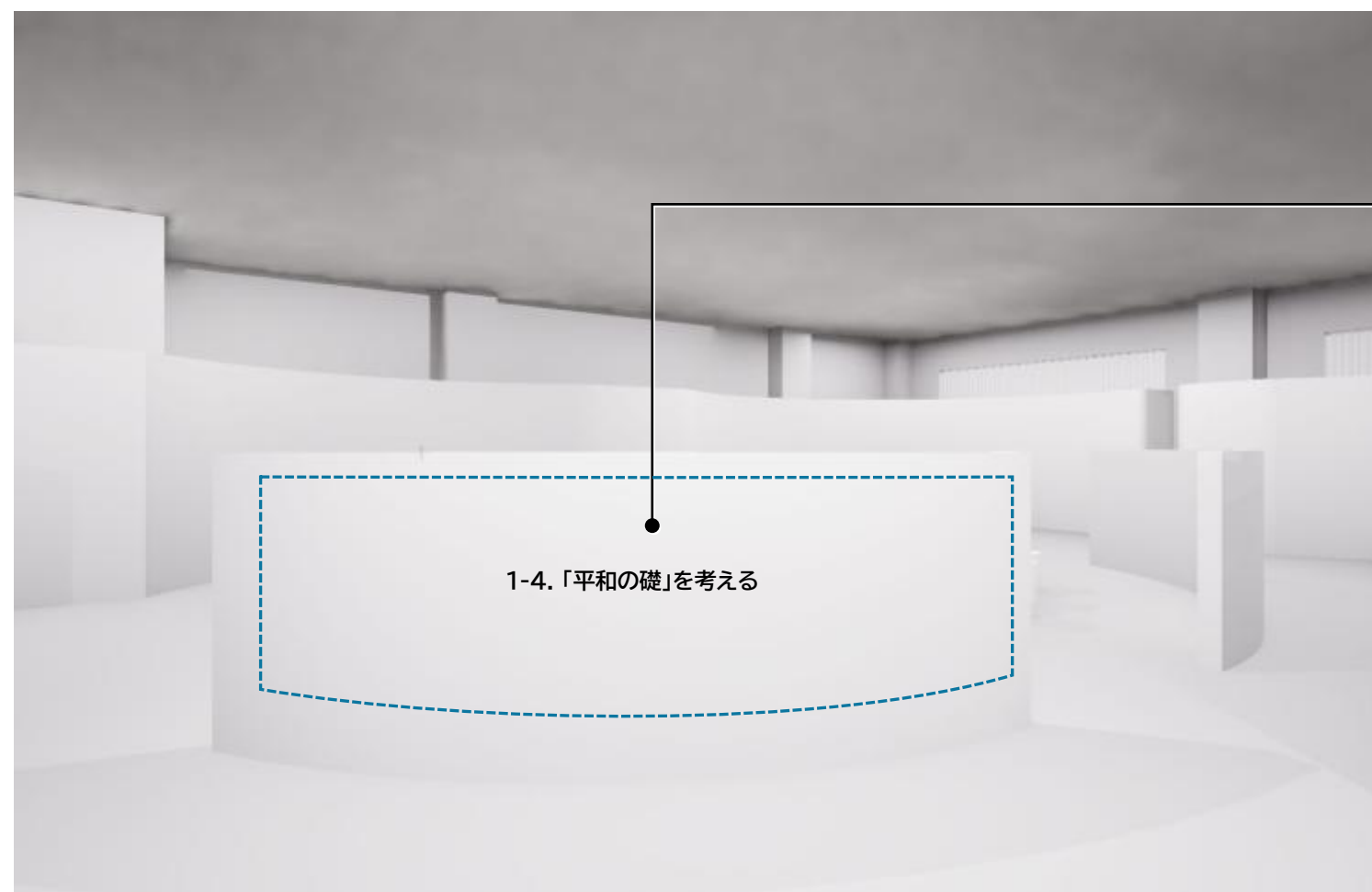
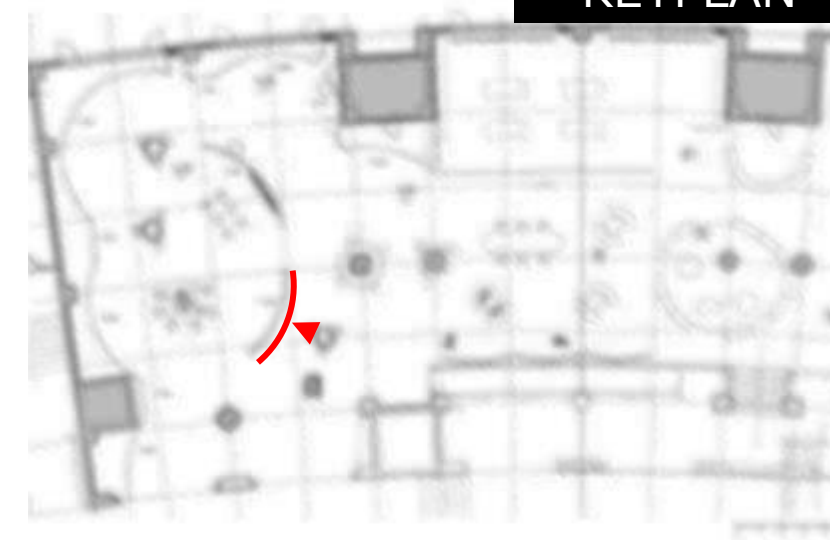
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」の建設趣旨や基本理念、デザインの意味などを伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 建設趣旨、基本理念などの基本情報を伝える。
- ・ 刻銘されていない人々などの「平和の礎」の課題を伝える。
- ・ クイズ形式など学びやすい手法を検討する。

KEYPLAN



- ・1-4-① 建設趣旨、基本理念、デザインコンセプト
 - ・1-4-② 刻銘者と刻銘されていない人々
- グラフィック
(「平和の礎」の建設趣旨や基本理念についての解説パネルなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-1.「アメリカ世」を生きる ―人権を求めて―

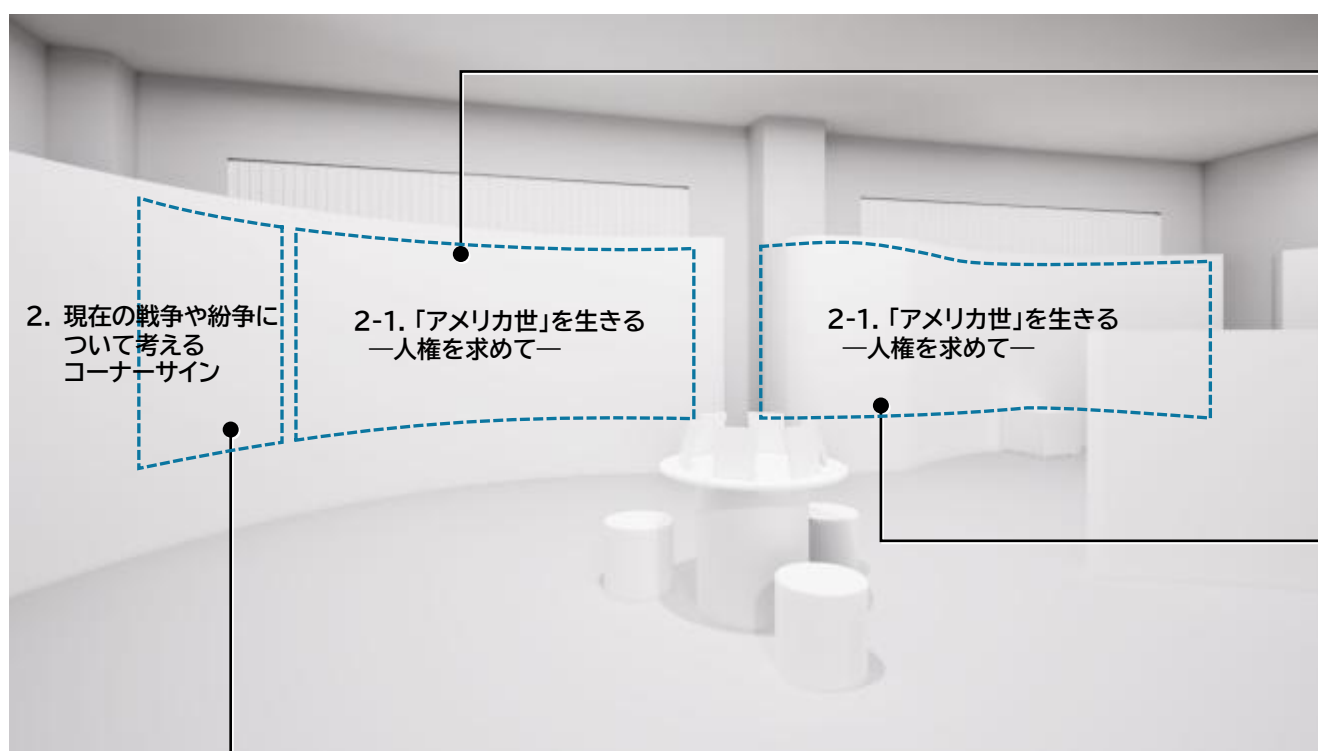
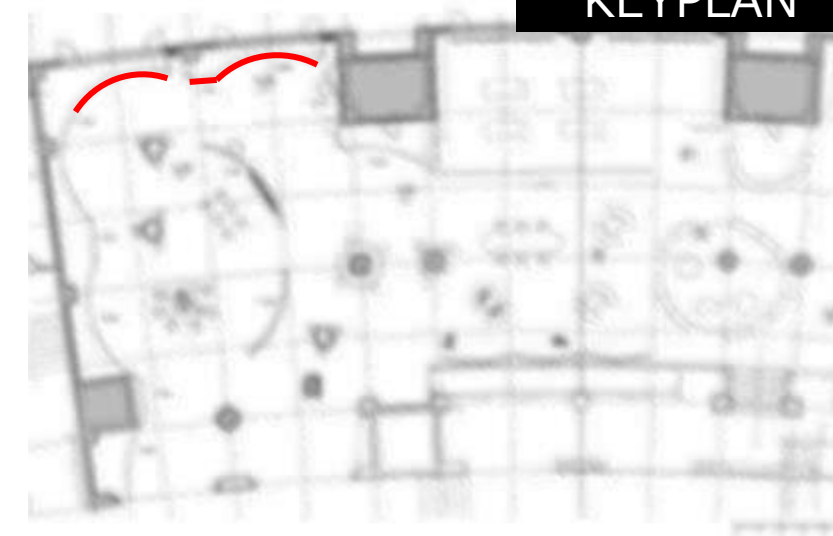
【展示のねらい】

- ・ 戦後の米国統治下では沖縄の人々の人権が制限され、沖縄戦後も「人間の安全保障」が脅かされたことを伝える。
- ・ 在沖米軍基地が朝鮮半島、ベトナムや中東など、世界の戦争と関係したことなど、沖縄が世界の戦争とつながっていることを伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 米国統治下の沖縄の人々のライフヒストリーを伝える。
- ・ 戦争の反省から日本国憲法がつくられたことや、憲法の適用を求めて復帰運動が行われたことも伝える。
- ・ 沖縄の人々の平和活動や平和を願う想いが伝わる展示内容を検討する。
- ・ ジェンダーバランスや活動の内容を考慮し、様々な人物が取り上げられるよう可変的な展示とする。
- ・ 在沖米軍基地が関係する戦争・紛争について地図や図解で示す。

KEYPLAN



2. 現在の戦争や紛争について考える
コーナーサイン

2-1.「アメリカ世」を生きる
―人権を求めて―

2-1.「アメリカ世」を生きる
―人権を求めて―

グラフィック

・ 2-1-① 沖縄の人々が辿った戦後のライフヒストリー
グラフィック
(沖縄戦の影響、戦後沖縄の課題などが考えられるライフヒストリーなど)

・ 2-1-② 沖縄とつながる世界の戦争・紛争
グラフィック
(沖縄戦の影響、戦後沖縄の課題などが考えられるライフヒストリーなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-2.世界でなにが

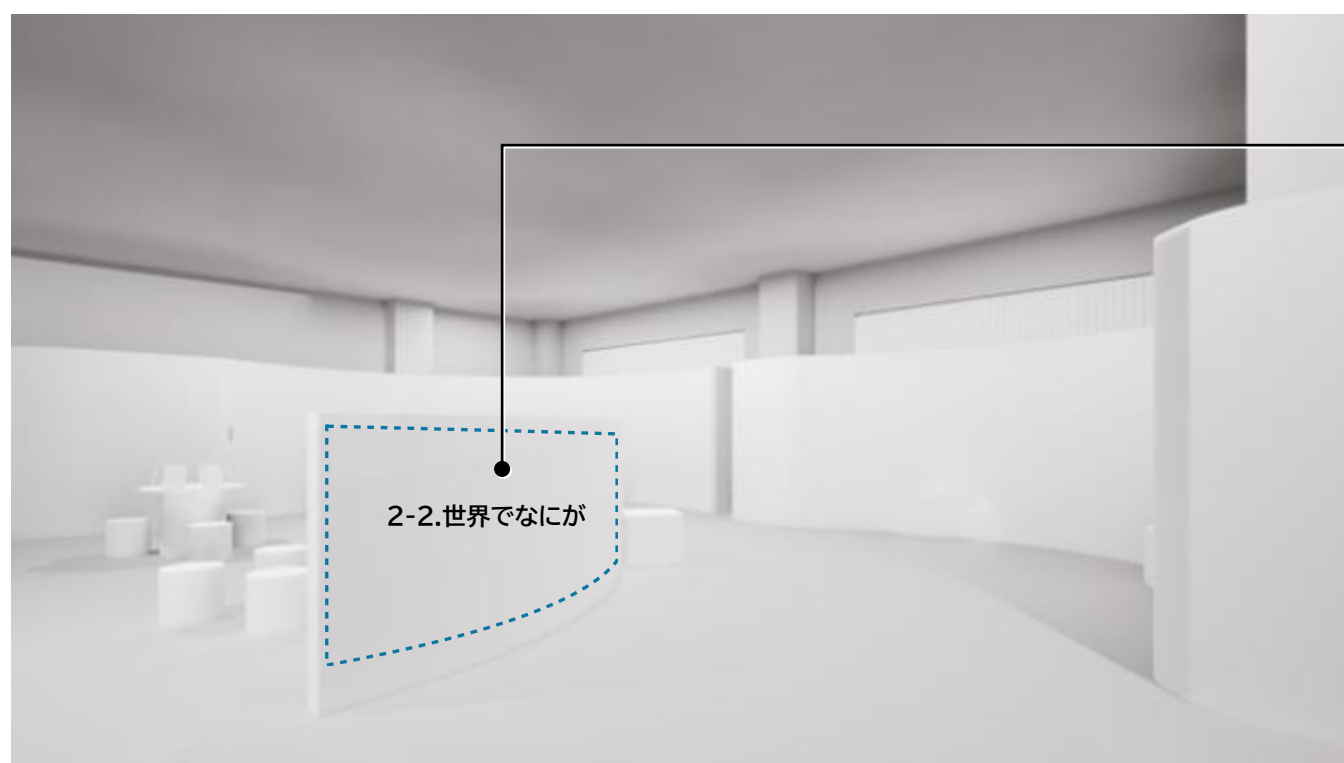
【展示のねらい】

- ・ 世界で起きた(起きている)戦争・紛争、差別などの人権問題などは、人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。
- ・ 人々の相互不信や偏見は、戦時下ではない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 第二次世界大戦後の主な戦争・紛争を地図で示す。また最新の紛争が示せるように更新性のある手法を検討する。
- ・ 世界人権宣言等ができたことや、国際人権法が確立されても紛争がつづく現状を伝える。
- ・ 世界の戦争・紛争や人権問題に関わる人々のライフヒストリーを伝える。
- ・ 沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフヒストリーを伝える。
- ・ 世界各地の戦争・紛争を取り上げるため、可変的な展示とする。

KEYPLAN



- ・ 2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題
 - ・ 2-2-② 沖縄・日本に存在する人権問題
- グラフィック・模型・資料
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフヒストリーなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-2.世界でなにが

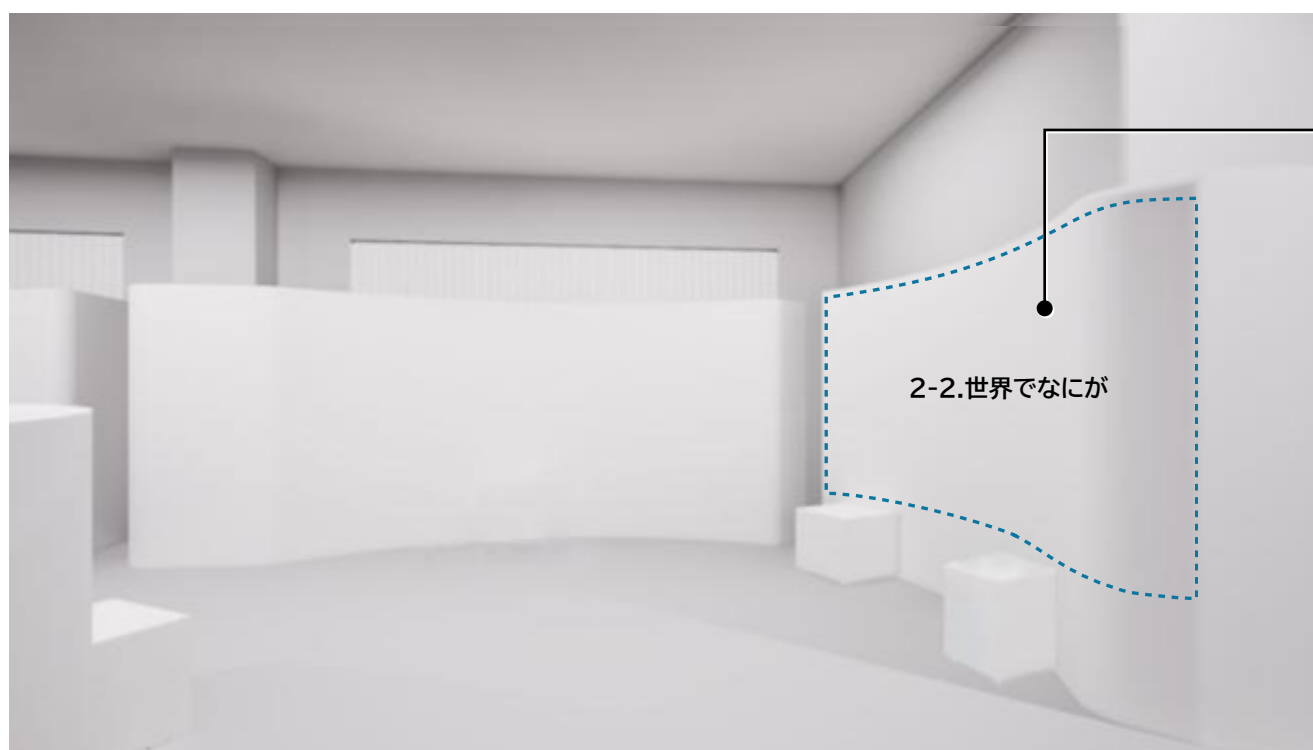
【展示のねらい】

- ・ 世界で起きた(起きている)戦争・紛争、差別などの人権問題などは、人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。
- ・ 人々の相互不信や偏見は、戦時下ではない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ めいぐるみ爆弾など、既存の体験型展示を活用する。
- ・ ハンズオンなどの体験型展示に関連する、紛争地の人々のライフヒストリーを伝える。

KEYPLAN



- ・ 2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題
グラフィック・模型・資料
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフヒストリーなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-2.世界でなにが

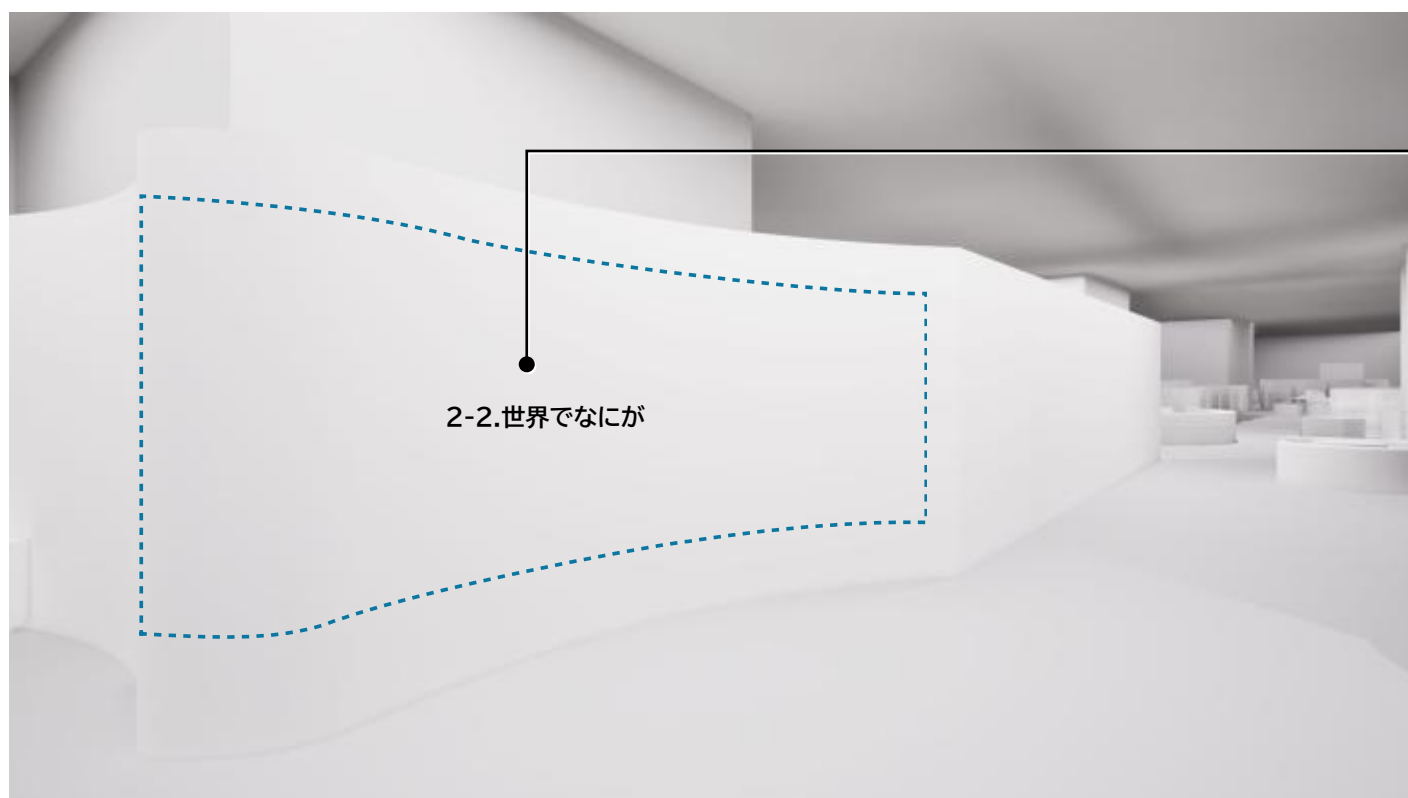
【展示のねらい】

- ・ 世界で起きた(起きている)戦争・紛争、差別などの人権問題などは、人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。
- ・ 人々の相互不信や偏見は、戦時下ではない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ アフガニスタンの紛争と中村哲氏の平和構築活動についてパネルで伝える。
- ・ 大項目2と大項目3を繋ぐような、紛争と平和構築について伝える内容とする。

KEYPLAN



- ・ 2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題
- ・ 2-2-② 沖縄・日本に存在する人権問題
グラフィック・模型・資料
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフストーリーなど)

3.平和創造を考えるコーナー

3-1. 平和活動に取り組む人々

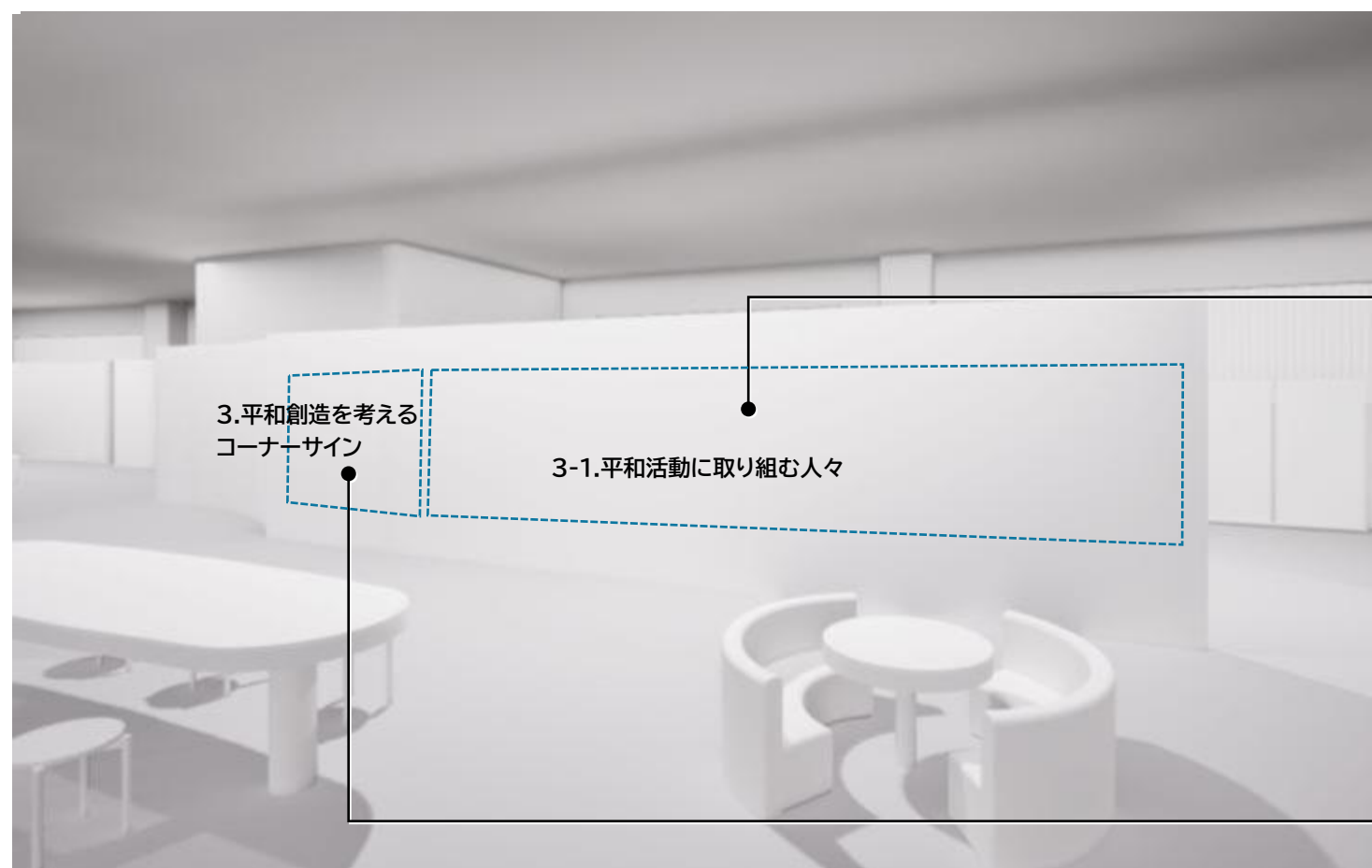
【展示のねらい】

- ・ 世界各地の戦争・紛争地で平和構築活動を行っている人の取り組みなどを伝え、戦争・紛争は終わらせることができることを伝える。
- ・ 沖縄など国内で平和構築や人権問題解決に取り組む人々を取り上げ、平和を創る意欲を高めてもらう。
- ・ 国内外の平和博物館及び関連施設を紹介し、平和等に関する学習意欲を深める契機にしてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 平和構築活動を行っている人々のライフヒストリーを伝える。
- ・ 沖縄県内など身近で平和活動を行っている人々についても取り扱う。
- ・ 本館とつながりのある平和博物館関連施設について紹介する。

KEYPLAN



- ・ 3-1-① 国内外で平和活動を行っている人々について
- ・ 3-1-② 沖縄など国内で平和活動をしている人々について
- ・ 3-1-③ 国内外の平和博物館及び関連施設
グラフィック
(主に沖縄平和賞受賞者に関する資料、県内・国内外の平和博物館関連施設に関する資料など)

グラフィック

3.平和創造を考えるコーナー

3-2.世界へ平和を発信する「平和の礎」

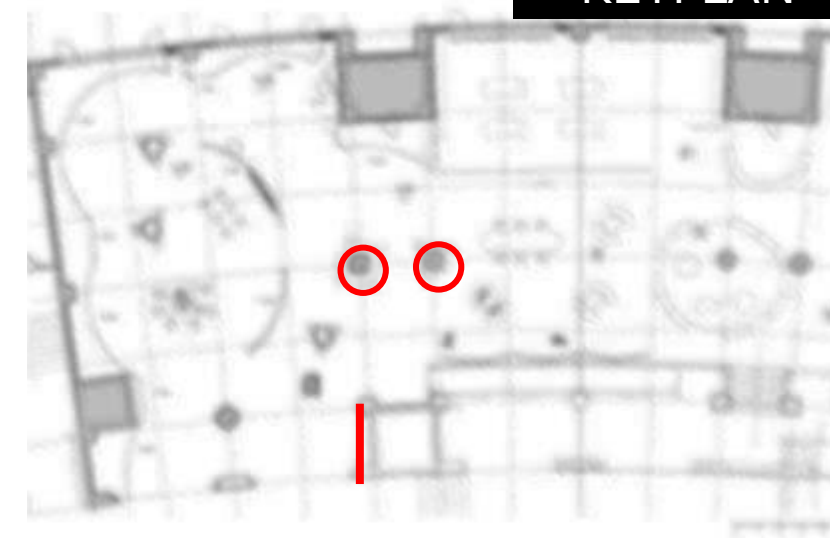
【展示のねらい】

- 戦争の要因のひとつである相互不信や差別、分断と「平和の礎」の建設趣旨・基本理念を照らし合わせ、「平和の礎」が何を伝えているのか、「平和の礎」を通して、現在の課題を克服する道筋を考えてもらう。

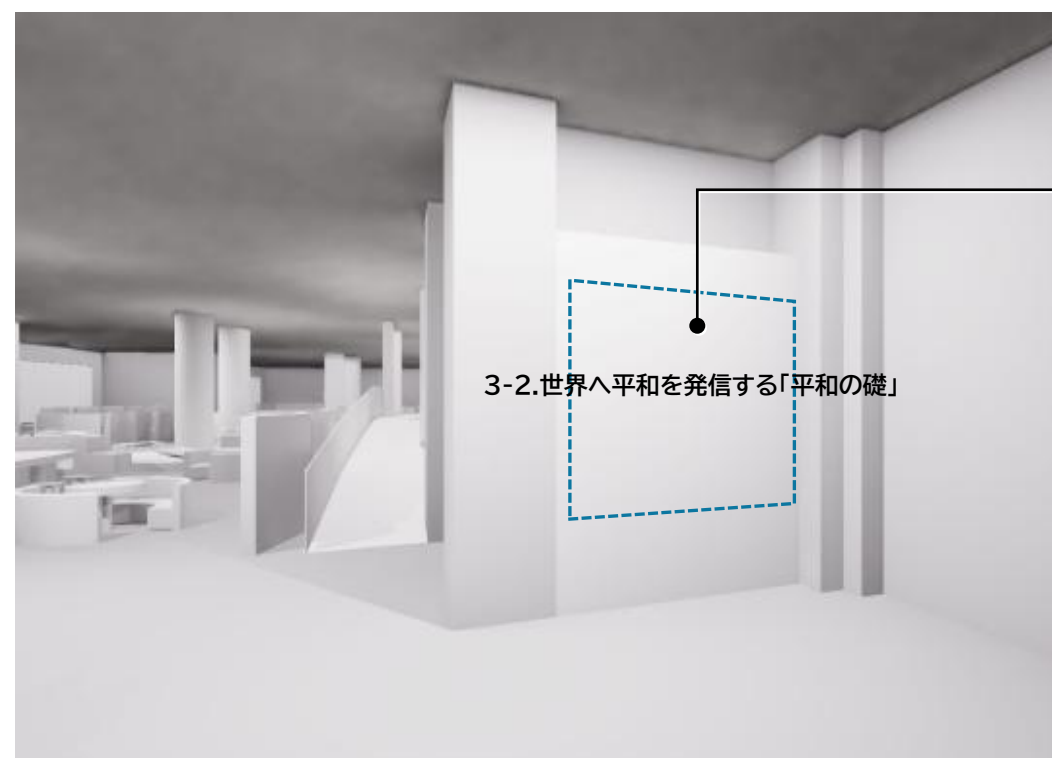
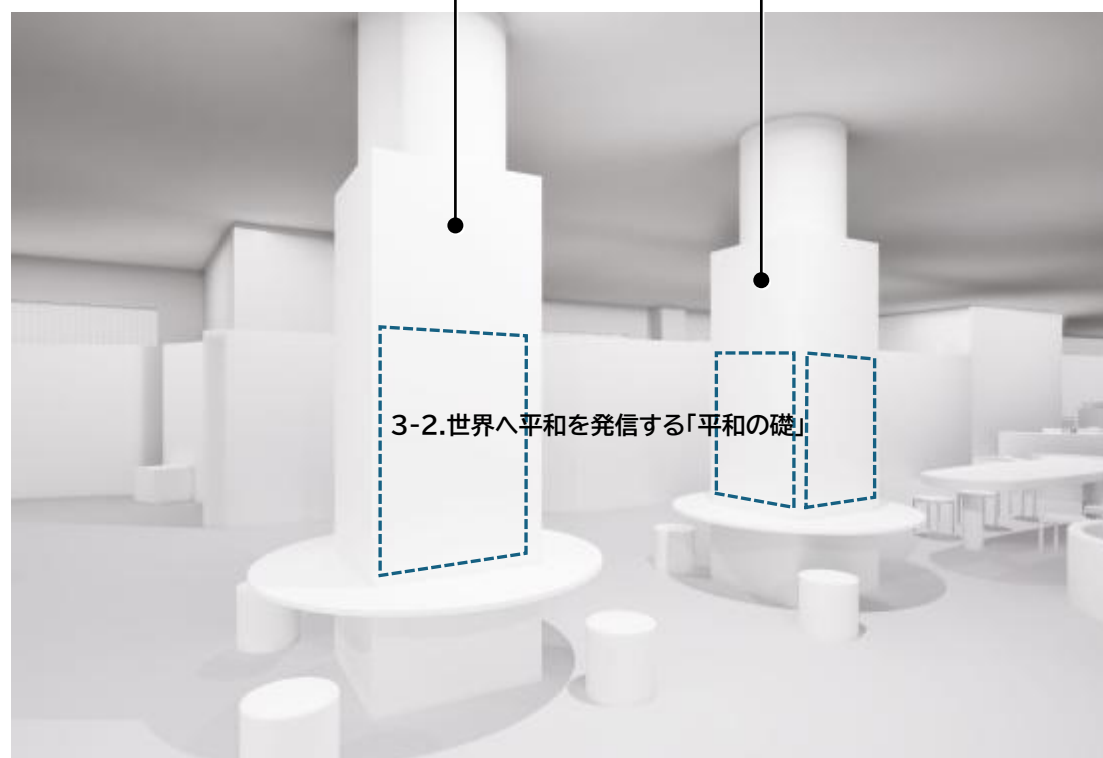
【展示の展開方針】

- 「平和の礎」に対する、沖縄県民の思いや意見、課題を改めて解説する。
- 「平和の礎」について考えたことを来館者参加型で展示する。

KEYPLAN



- 3-2-① 「平和の礎」の理念や課題を振り返り、未来の平和創造に向けて可能性を考える
グラフィック
(「平和の礎」に対するこれまでの意見、来館者のメッセージ)



- 3-2-① 「平和の礎」の理念や課題を振り返り、未来にむけて可能性を考える
グラフィック

3.平和創造を考えるコーナー

3-3.平和を発信しよう

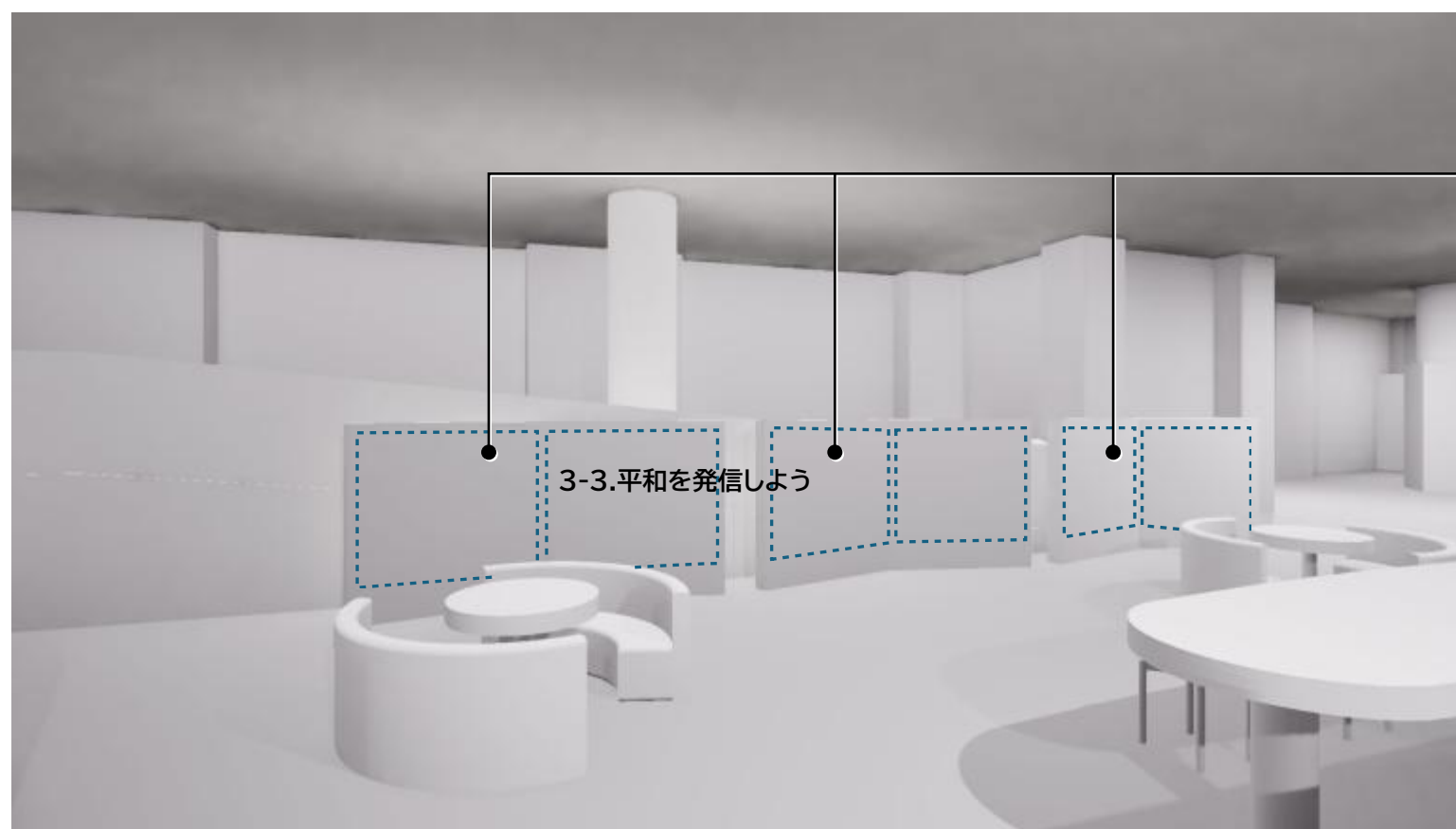
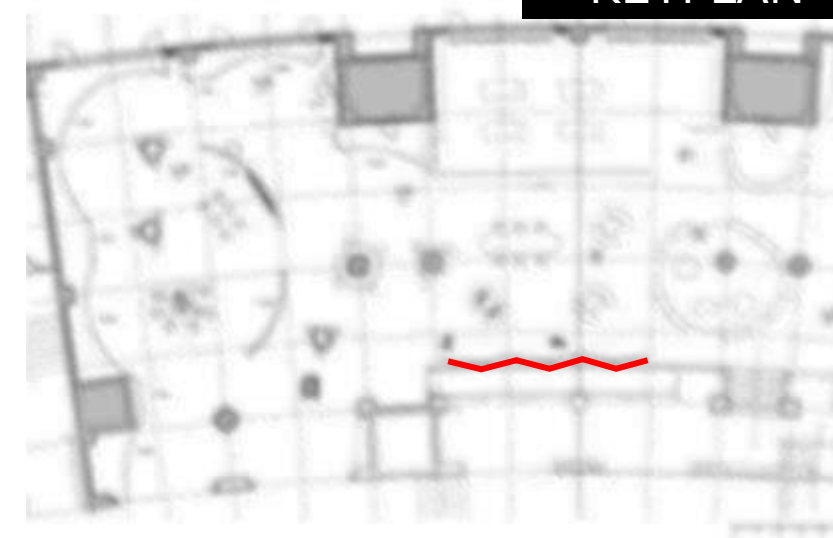
【展示のねらい】

- ・ 県内の子どもたちの平和について発信している活動を伝え、来館者に平和を発信する意識を醸成してもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 「児童・生徒の平和メッセージ展」の作品をパネルで紹介する。
- ・ 年度ごとに作品が展示できるように更新性の高い展示手法とする。

KEYPLAN



- ・ 3-3-① 平和を創造する意思表示等を何らかのアクションで発信する
グラフィック・資料
(児童・生徒の平和メッセージ展の作品)

4.企画展示コーナー

4-1.企画展示コーナー

【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦や人権問題を考える機会を提供する企画展示を実施する。

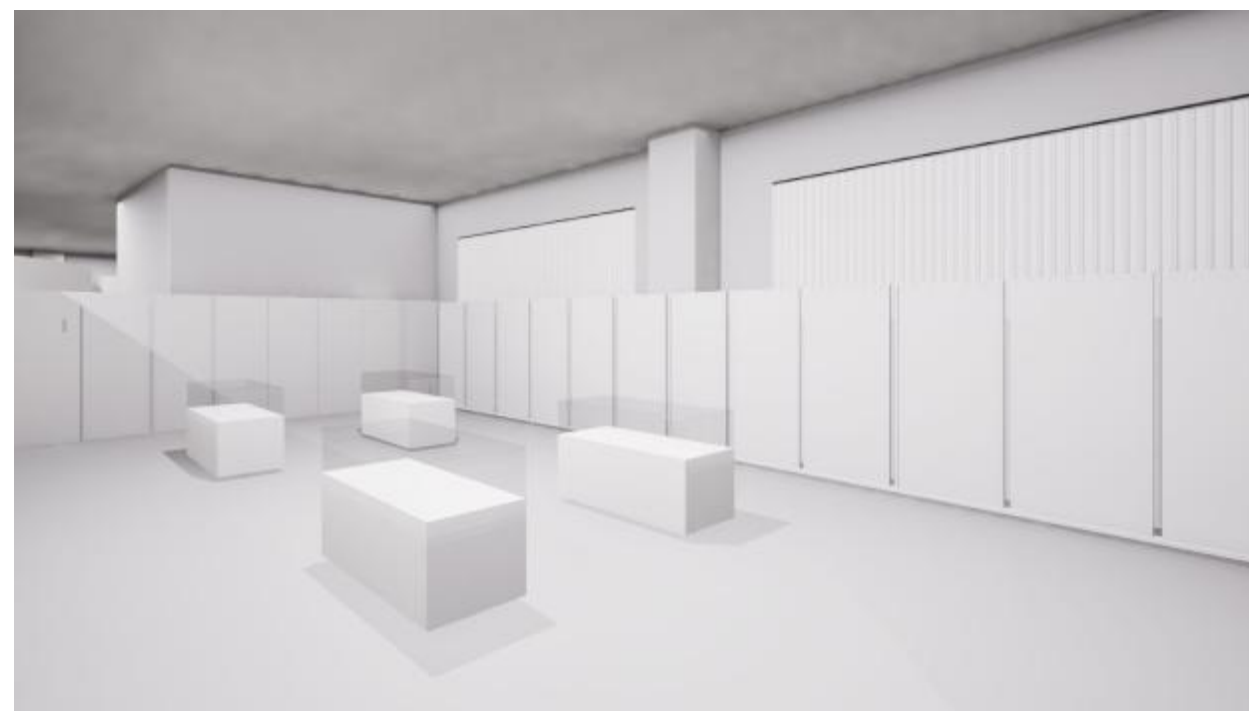
【展示の展開方針】

- ・ 既存の企画展示室と同程度の展示面積を確保する。
- ・ 1年に数回の展示替えができるよう、更新性の高い什器を設置する。

KEYPLAN



- ・ 4-1-① 子ども対象の沖縄戦や人権問題、国際理解をテーマとした企画展
グラフィック・資料



5.学びとふれあいコーナー

5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー

【展示のねらい】

- ・ 絵本や学習ツールに触れながら、平和について考える機会を提供する空間にする。
- ・ 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。

【展示の展開方針】

- ・ 小上がりにし、靴を脱いでくつろげるスペースとする。
- ・ 絵本や紙芝居等、手に取れる資料を設置する。

KEYPLAN



5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー

- ・ 5-1-① 多様な国々・世界の子どもたち
 - ・ 5-1-② 沖縄の戦争遺跡や世界の戦争・紛争のマップ
 - ・ 5-1-③ 平和を考える絵本
 - ・ 5-1-④ 来館者のふれあい(メッセージ等)
- グラフィック・映像装置・資料・模型
(現在の「せかいの子どもたち」のケース内展示物、平和に関する絵本など)

5.学びとふれあいコーナー

5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー

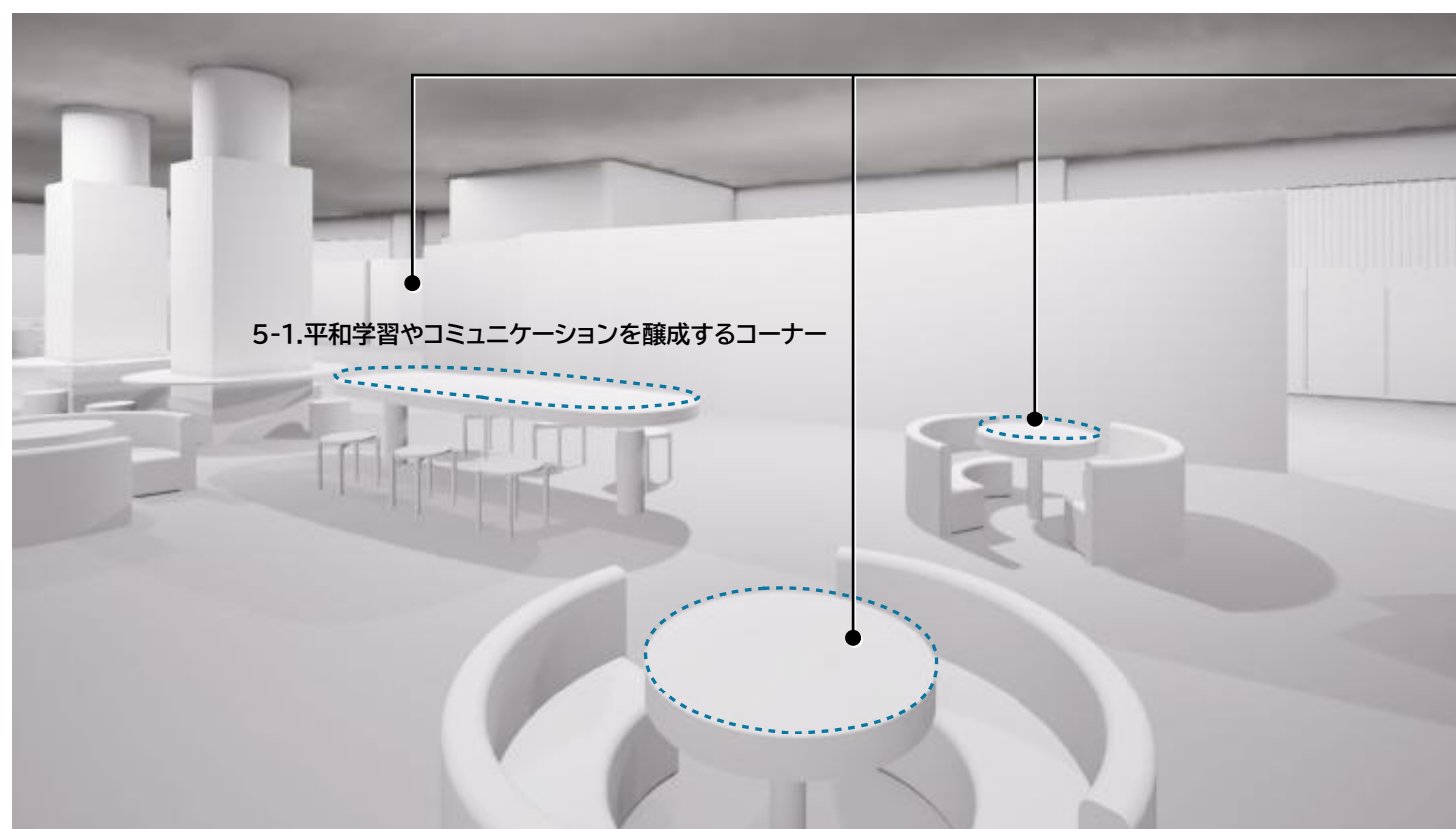
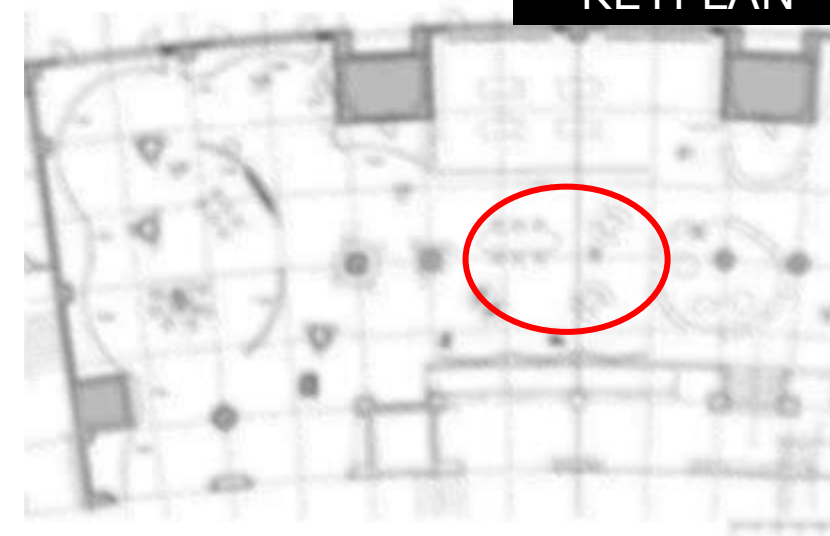
【展示のねらい】

- ・ 絵本や学習ツールに触れながら、平和について考える機会を提供する空間にする。
- ・ 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。

【展示の展開方針】

- ・ 展示を振り返りながら、来館者同士が対話できる場とする。
- ・ アンケートやメッセージ、ワークシートを設置して、平和や戦争・紛争について深く考えられるような工夫をする。

KEYPLAN



- ・ 5-1-④ 来館者のふれあい(メッセージ等)
グラフィック

6.情報ライブラリー

6-1.情報ライブラリー

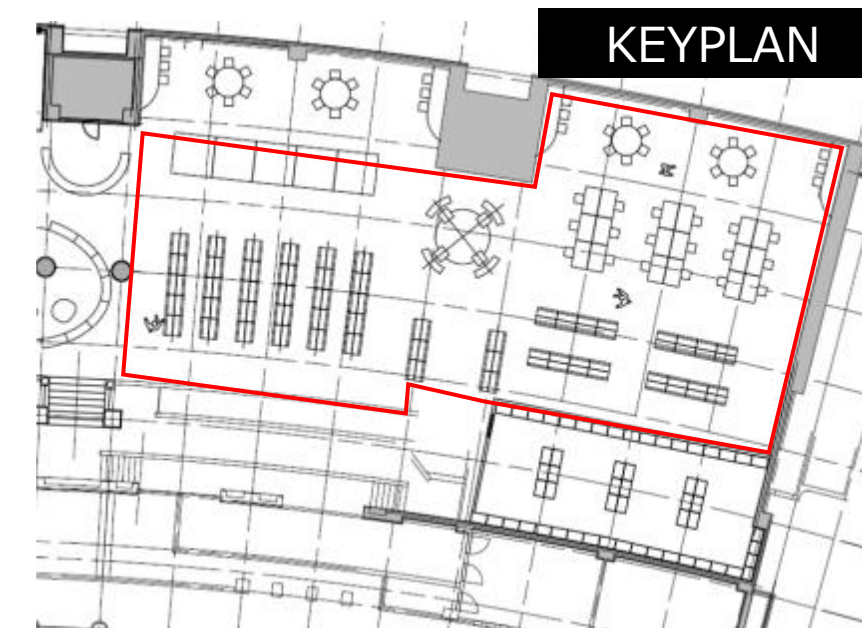
【展示のねらい】

- ・ 戦争や平和、人権への理解を深める。また平和学習を進めるために必要な資料・情報を提供する。

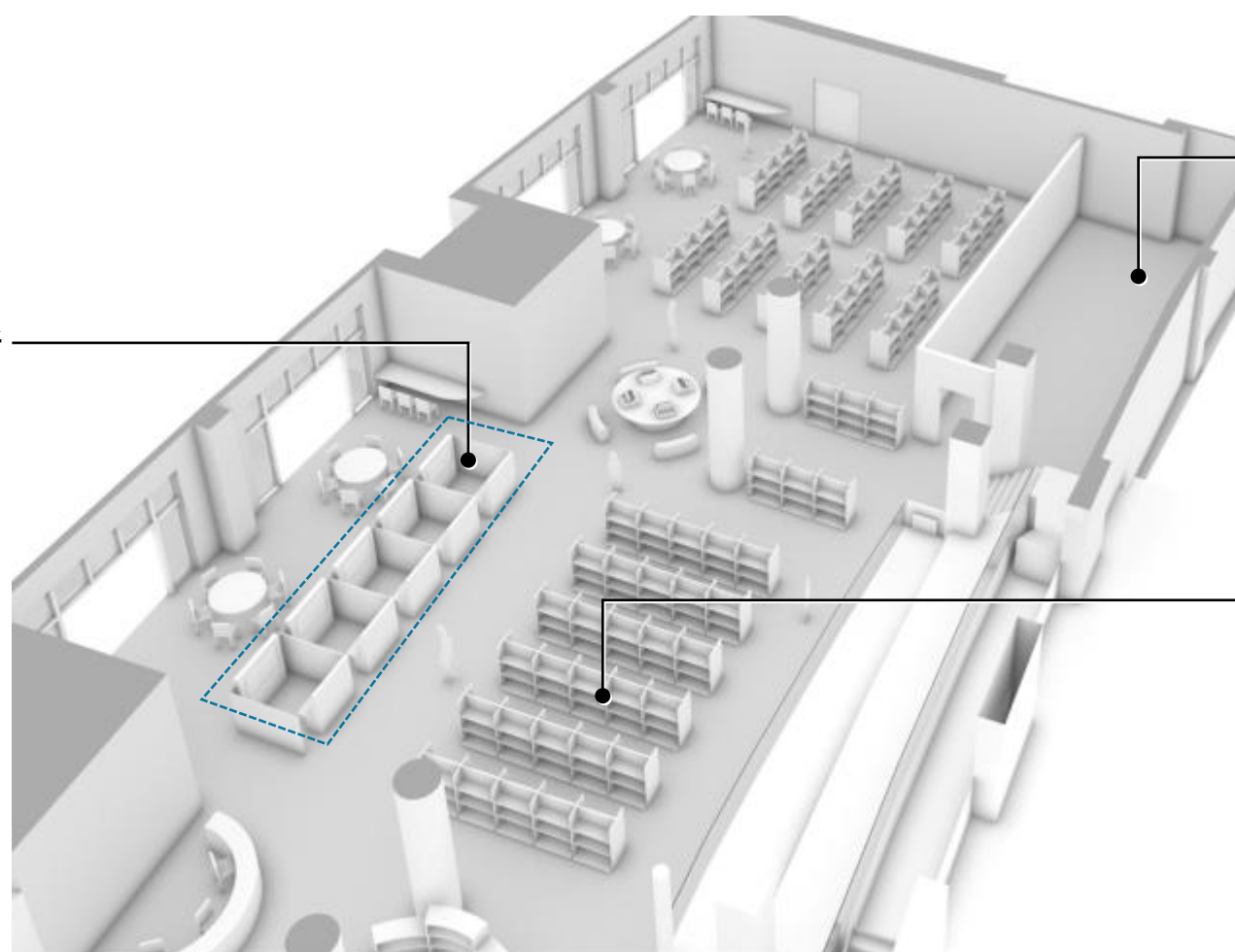
6-2.証言映像ブース

【展示のねらい】

- ・ 当館が所蔵する多数の証言を閲覧し、常設展示の理解を深められるようにする。



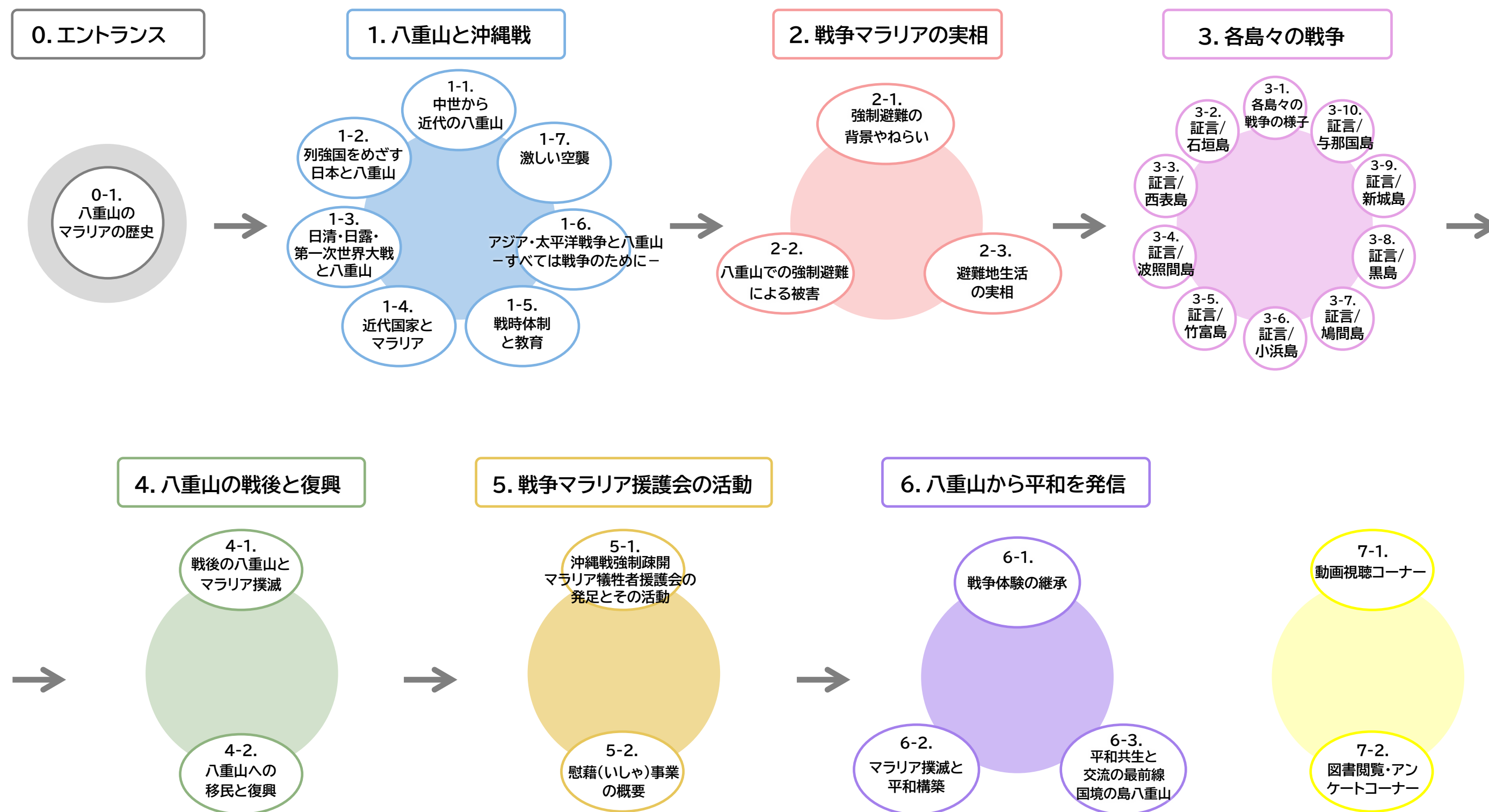
- ・ 6-2-① 映像機器の更新
映像装置
(証言の映像など)



バックヤード(収納スペース)

- ・ 6-1-① 書籍の充実
- ・ 6-1-② 利用しやすい書架の配列
(こども図書ライブラリー)
- ・ 6-1-③ 書庫の充実
- ・ 6-1-④ 学習スペースの充実
資料
(図書資料、閲覧台、収納スペースなど)

八重山平和祈念館（分館）

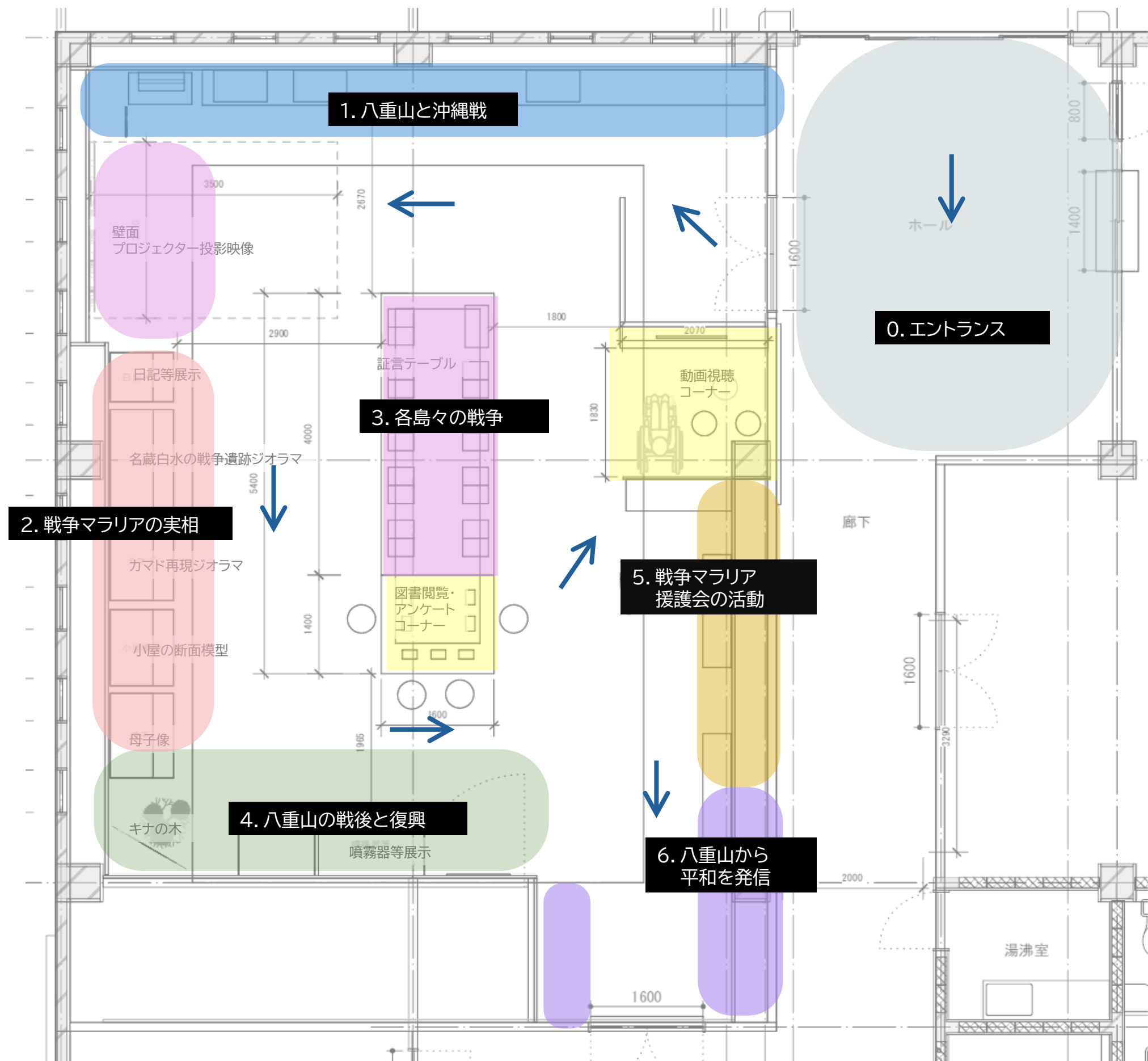


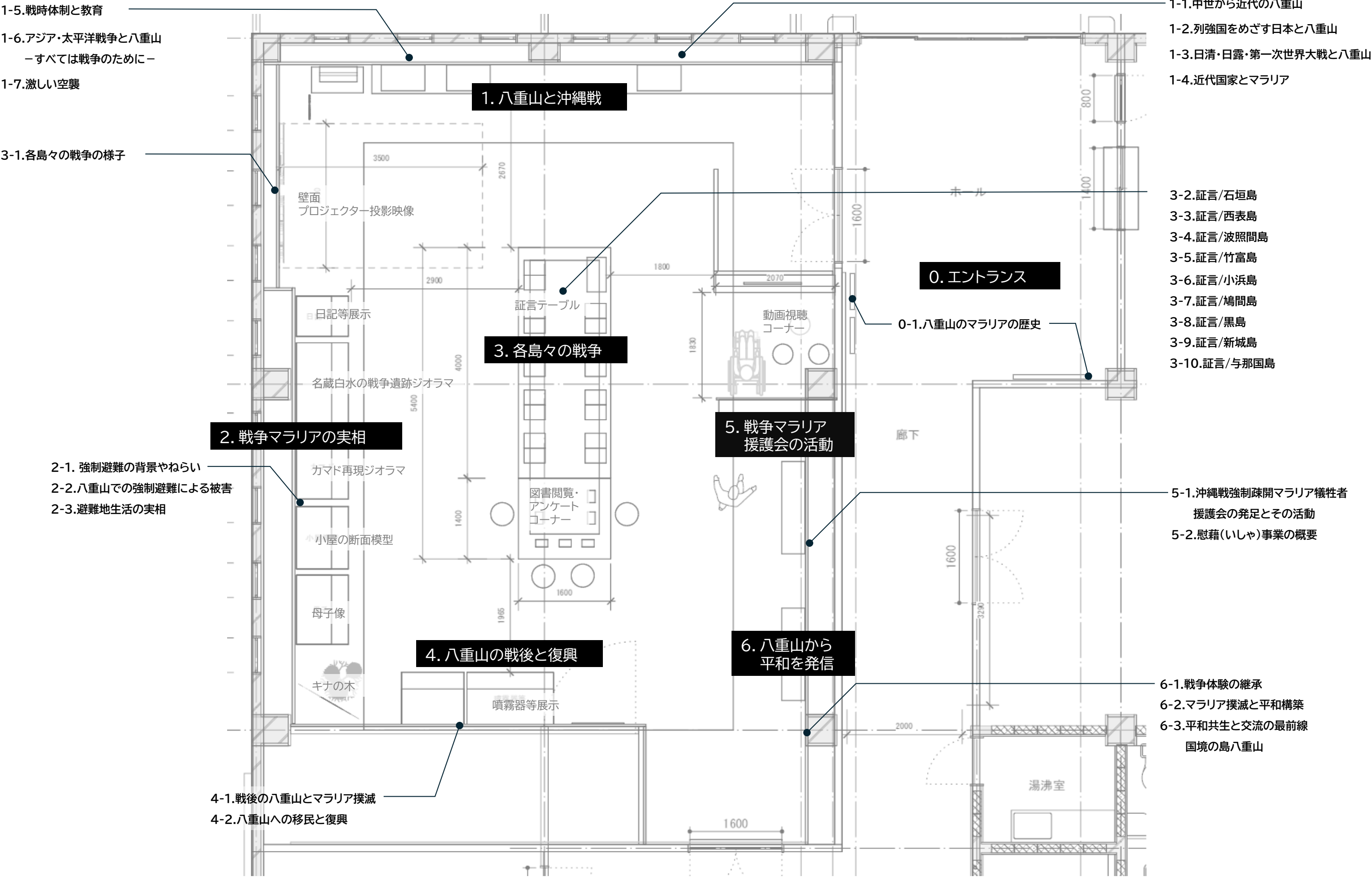
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
八重山平和祈念館	戦争マラリアの実相を後世に正しく伝えとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える「平和の発信拠点」の形成をめざす。	0.エントランス	八重山で風土病とされていたマラリアの基本的な情報を伝えとともに、沖縄戦における八重山の戦没者の多くが戦争マラリアによるものであることへの気づきを促す。	0-1.八重山のマラリアの歴史	八重山で風土病とされていたマラリアの基本的な情報を伝えとともに、沖縄戦における八重山の戦没者の多くが戦争マラリアによるものであることへの気づきを促す。	0-1-① 八重山の戦争とは？ 0-1-② マラリアとは？ 0-1-③ 八重山とマラリア	グラフィック	八重山とマラリアの関係を示す図解など
		1.八重山と沖縄戦	八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。	1-1.中世から近代の八重山	人頭税や大津波、寄人制度による強制移住政策等によって、近代を迎える時点の八重山が大きく疲弊した状況であったことを伝える。	1-1-① フーキ（風気）と称された八重山の風土病「マラリア」 1-1-② 人頭税と強制移住政策 1-1-③ 甚大な被害をもたらした「明和の大津波」	グラフィック	
				1-2.列強国をめざす日本と八重山	日本の台湾出兵や、琉球併合、清国との分島・増約案の動きなど、日本に組み込まれ政治的な問題に利用されながら、八重山が日本の国境となっていく過程を伝える。	1-2-① 牡丹社事件と台湾出兵 1-2-② 琉球併合と分島・増約案	グラフィック・資料	台湾出兵、琉球併合に関する図解、写真など
				1-3.日清・日露・第一次世界大戦と八重山	日清戦争以後、沖縄でも徴兵制が施行され、日本の軍国主義が広がり、八重山も急速に変化していく様子を伝える。また日本の植民地となった台湾が、八重山に与えた影響などにもふれる。	1-3-① 徴兵令の発布 1-3-② 日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦 1-3-③ 台湾の植民地化 1-3-④ 西表炭坑	グラフィック	日清戦争・日露戦争に関する写真、当時の植民地地図など
				1-4.近代国家とマラリア	これまで八重山の人々を苦しめてきた熱病がマラリアだと明らかになり、マラリアの防遏に向けて動き出した八重山について伝える。	1-4-① 南西諸島調査とマラリアの「発見」 1-4-② マラリア防遏への取り組み 1-4-③ 人頭税の廃止（1903年） 1-4-④ 日本の恐慌と八重山住民	グラフィック・資料	『南島探検』、『八重山群島瘴癘毒記』など
				1-5.戦時体制と教育	戦争が忍び寄ってきた八重山でも思想統制や戦時体制が強化され、学校教育での皇民化教育や軍国主義教育が重要な役割を担っていたことを伝える。さらに地域の文化や風習など生活のあらゆる面が統制されていったことを伝える。	1-5-① 御真影、教育勅語の下賜 1-5-② 国民学校と「国体護持」 1-5-③ 弾圧される日本教育労働組合八重山支部 1-5-④ 標準語励行運動 1-5-⑤ 翼賛青年連盟与那国支部・大政翼賛会八重山支部の誕生 1-5-⑥ 八重山から中国大陆へ 1-5-⑦ 鳥居設置の奨励と戦争	グラフィック・資料	教育勅語、誓の家札など
				1-6.アジア・太平洋戦争と八重山ーすべては戦争のためにー	戦争のために、生活が苦しくなっていく住民や疎開が進められ地域を離れざるを得ない住民など、戦時下の八重山の状況を伝える。 また、八重山においても、根こそぎ戦場動員が行われ、朝鮮人軍夫や慰安婦が存在したこと、さらに特攻と関連の深い地域であったことなども伝える。	1-6-① 大舩松市顕彰運動 1-6-② 船浮臨時要塞と第32軍 1-6-③ 陸軍中野学校出身者 1-6-④ 住民の根こそぎ動員 1-6-⑤ 朝鮮人軍夫 1-6-⑥ 慰安婦問題 1-6-⑦ 台湾、九州への疎開 1-6-⑧ 子どもたちの動員 1-6-⑨ 沖縄戦特攻作戦第1陣 石垣島から出陣	グラフィック・資料	米英に宣戦布告したことを伝える新聞、臨時召集令状、千人針、軍隊手帳など
				1-7.激しい空襲	米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。	1-7-① 沖縄島での戦闘の概要 1-7-② 激烈を極める空襲 1-7-③ みのかさ部隊 1-7-④ 船舶撃沈事件 1-7-⑤ 米軍捕虜虐殺事件 1-7-⑥ 空襲と御真影・教育勅語	グラフィック・資料	石垣島地方気象台の弾痕跡、みのかさ部隊の鉄かぶと（レプリカ）など

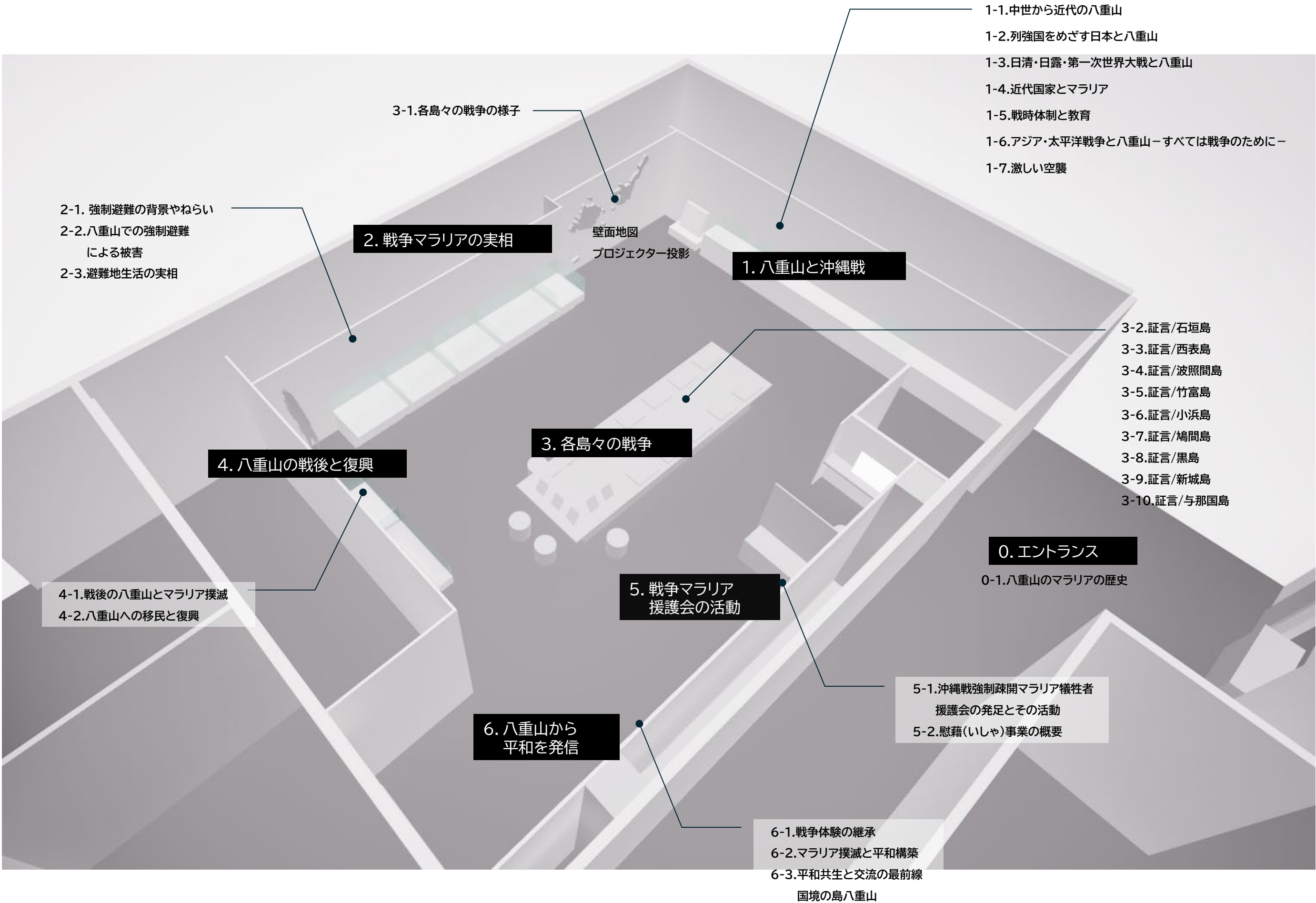
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		2.戦争マラリアの実相	軍命による有病地への強制避難によって引き起こされた戦争マラリアの実相を伝える。 食糧も薬もないなかで、住民たちがどのような暮らしを強いられたのかを伝える。	2-1.強制避難の背景やねらい	日本軍がマラリア有病地を調査した上で避難命令をだしたこと、命令は口頭で行われたことなどから、強制避難が軍の命令によって行われたことを資料から伝える。強制避難のねらい、軍と行政の役割についてもふれる。	2-1-① 日本軍のマラリア認識 2-1-② マラリア有病地への強制避難命令 2-1-③ 強制避難命令のねらい	グラフィック・資料	『八重山群島ノ衛生状況大要』、『県民指導措置八重山群細部計画』、東畑広吉参謀長の手記、潮平寛保氏の日記など
				2-2.八重山での強制避難による被害	強制避難が、八重山各地で行われ、多くの住民がマラリアによる被害にあったことを伝える。また日本兵や子どもたちなど様々な人々の被害についても取り上げる。	2-2-① 強制避難の概況 2-2-② 波照間島住民と忘勿石 2-2-③ 兵士たちのマラリア犠牲 2-2-④ 戦争マラリアと戦争孤児	グラフィック・資料	鉄田義司氏の日記、『波照間小学校沿革誌』など
				2-3.避難地生活の実相	避難した指定地が劣悪な環境であり、住民たちは過酷な生活を送ったことを、白水地区の様子を主として紹介する。避難地での体験をもとにかかれた絵、ジオラマ、模型、遺留品などから当時の状況をわかりやすく伝える。	2-3-① 避難地での食糧事情と居住環境 2-3-② 戦争マラリアによる犠牲者 2-3-③ 看病、埋葬の状況	グラフィック・模型	白水戦争遺跡群ミニジオラマ、高熱に苦しむ母子像、カマド跡の模型、避難小屋の模型、潮平正道氏の絵など

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.各島々の戦争	八重山の島々の沖縄戦時の状況を解説する。 証言を通じて、戦争及び戦争マラリアの実相を伝える。	3-1.各島々の戦争の様子	同じ八重山でも各島によって異なる戦時の様子を伝える。軍が支配する体制の中での軍・官・民の関係性や、住民たちの状況を展示することで戦時体制がどのようなものだったのかを考えてもらう。	3-1-① 漁船撃沈等周辺海域の状況 3-1-② 各島の戦争の状況 3-1-③ 各島の軍隊配備状況 3-1-④ 離島残置謀者と八重山 3-1-⑤ 各島の強制避難の状況 3-1-⑥ 強制避難を免れた島・竹富島 3-1-⑦ 各島の戦争及び戦争マラリアによる犠牲者数	グラフィック・映像装置	八重山住民の避難場所を表す地図など
				3-2.証言/石垣島	戦時中の暮らしの変化や、台湾疎開、現地召集、学徒隊、空襲、戦争マラリアなど戦時中の石垣島についての証言を取り上げる。	3-2-① 各島々の証言 石垣島 3-3-① 各島々の証言 西表島 3-4-① 各島々の証言 波照間島 3-5-① 各島々の証言 竹富島 3-6-① 各島々の証言 小浜島 3-7-① 各島々の証言 鳩間島 3-8-① 各島々の証言 黒島 3-9-① 各島々の証言 新城島 3-10-① 各島々の証言 与那国島	グラフィック、資料	各島々の証言記録、旧日本軍の茶碗、石垣会の旗、海軍飛行予科練習生 夏服、モンペ、沖縄戦の絵「与那国島カツオ工場への空襲」金城マツエ画など
				3-3.証言/西表島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、護郷隊、安東丸事件、マラリアなど、戦時中の西表島についての証言を取り上げる。			
				3-4.証言/波照間島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、残置工作員の配置、家畜の屠殺、戦争マラリアなど、戦時中の波照間島についての証言を取り上げる。			
				3-5.証言/竹富島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、大石部隊、西表島への疎開が強制ではなくなった背景など、戦時中の竹富島についての証言を取り上げる。			
				3-6.証言/小浜島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、特攻艇、朝鮮人軍夫、島内でのマラリアなど、戦時中の小浜島についての証言を取り上げる。			
				3-7.証言/鳩間島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、国民学校長の殉職、戦争マラリアなど、戦時中の鳩間島についての証言を取り上げる。			
				3-8.証言/黒島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、残置工作員の配置、家畜の屠殺、戦争マラリアなど、戦時中の黒島についての証言を取り上げる。			
				3-9.証言/新城島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、戦争マラリアなど、戦時中の新城島についての証言を取り上げる。			
				3-10.証言/与那国島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、残置工作員の配置、島内でのマラリアなど、戦時中の与那国島についての証言を取り上げる。			

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		4.八重山の戦後と復興	八重山において戦後がどのように始まったのか、その中で取り組まれたマラリア対策とその成果に触れるとともに、引揚者による人口増加、沖縄島の米軍基地建設に伴う移民の増加などにより、マラリアが再流行したこと、その後のマラリア撲滅までの取り組み等を紹介する。 復興に向かう八重山の状況について紹介する。	4-1.戦後の八重山とマラリア撲滅	八重山の戦後がどのように始まったのか、そしてその中で取り組まれたマラリア防遏や罹患者への治療や対策、さらにウイラー 博士によるマラリア撲滅計画「ウイラープラン」など、マラリア撲滅へ力を注いだ戦後の八重山について伝える。また戦後拡大していく沖縄島の米軍基地建設や戦後の引揚げによる人口増加などを背景に、まだ有病地だった八重山の土地に多くの開拓移民が入植し、移民マラリアが発生したことについても解説する。	4-1-① 八重山の戦後の始まり 4-1-② 引揚げと移民 4-1-③ 戦後直後のマラリア対策とその成果 4-1-④ 米軍基地建設等に伴う移民の増加、森林開拓等によるマラリア再燃 4-1-⑤ WHOによるマラリア根絶計画の公表 4-1-⑥ ウイラープランの展開	グラフィック・資料	アテブリン、マラリア防遏のチラシ、マラリア対策に関する帳簿類、マラリア対策に使用された機器類、キナの木（枯木）など
				4-2.八重山への移民と復興	戦後の八重山での開拓移民や、八重山からも沖縄島や本土への出稼ぎ者が増加するなど、戦後の人々の動きを伝える。また「密貿易」など戦後の混乱した状況とともに、インフラ整備、復興博覧会の開催など復興に向かう八重山の状況を伝える。	4-2-① 沖縄島や宮古島等からの移民の実態 4-2-② 八重山からの人口流出と移住者の流入 4-2-③ 「密貿易」と復興 4-2-④ 八重山自治政府 4-2-⑤ 八重山における文芸復興の動き 4-2-⑥ 米国民政府の復興政策 4-2-⑦ とぅばらーま大会（昭和22年から）	グラフィック・資料	移住者の生活用具、文化復興を示す書籍など
		5.戦争マラリア援護会の活動	沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会発足の経緯とその活動について伝えるとともに、その活動の成果として、慰霊碑や八重山平和祈念館が設置されたことなどについて伝える。	5-1.沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会の発足とその活動	1989年（平成元年）に援護会が結成され、戦後補償に向けて動き出した流れや遺族の思いを伝える。戦争マラリアが軍命によって引き起こされたことを明らかにするために集められた資料を展示する。	5-1-① 総決起大会 5-1-② 陳情活動 5-1-③ 追悼式の開催 5-1-④ 篠原武夫教授が援護会活動を始めをきっかけとなった『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館ガイドブック』	グラフィック・資料	援護会の活動を示す資料、『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館 ガイドブック』など
				5-2.慰藉（いしゃ）事業の概要	八重山平和祈念館が設立される背景である慰藉事業の概要について伝える。	5-2-① 八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑の建立 5-2-② 「八重山平和祈念館」の設立 5-2-③ 『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌－』の発行	グラフィック・資料	慰霊碑と同じ材料で作られた石、『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌』など
		6.八重山から平和を発信	沖縄戦、そして、戦争マラリアを経験した八重山から日本に、そして世界に平和のメッセージを発信する。 八重山における平和創造に関する活動や取組を紹介する。	6-1.戦争体験の継承	これまで蓄積されてきた戦争体験や沖縄戦研究から戦争の教訓を伝えるとともに、八重山で続けられてきた次世代に戦争体験を継承する活動を紹介する。	6-1-① むすびのことば 6-1-② 戦争体験継承への取組 6-1-③ これまでに建立された慰霊碑（モニュメント）の紹介	グラフィック・資料	戦争体験の継承を示す写真、八重山諸島内の慰霊塔の写真など
				6-2.マラリア撲滅と平和構築	現在の世界においても紛争地域とマラリア有病地に関連があることを伝える。途上国におけるインフラや公衆衛生の諸課題について、マラリア撲滅を達成した八重山から平和構築のあり方を考える。	6-2-① マラリア×紛争 世界地図 6-2-② マラリア有病地の課題（インフラ・公衆衛生など） 6-2-③ マラリア撲滅と八重山（ゼロマラリアの碑、当館でのJICA研修受け入れなど）	グラフィック	世界のマラリア分布図、現代におけるマラリア対策の写真など
				6-3.平和共生と交流の最前線 国境の島八重山	国境の島である八重山は、近隣地域との行政・民間での交流が活発な地域であり、共生と交流の活動が続けられてきたことを紹介し、世界へ平和を発信する。	6-3-① 八重山を中心に広がる地図（近隣地域との位置関係） 6-3-② 八重山と台湾の関係史 6-3-③ 八重山における国際交流	グラフィック	八重山を中心とした地図、八重山と台湾のつながりを示す写真、八重山と海外との交流を示す写真など
		—	—	7-1.動画視聴コーナー	—	—	映像	—
				7-2.図書閲覧・アンケートコーナー	—	—	図書・資料	—







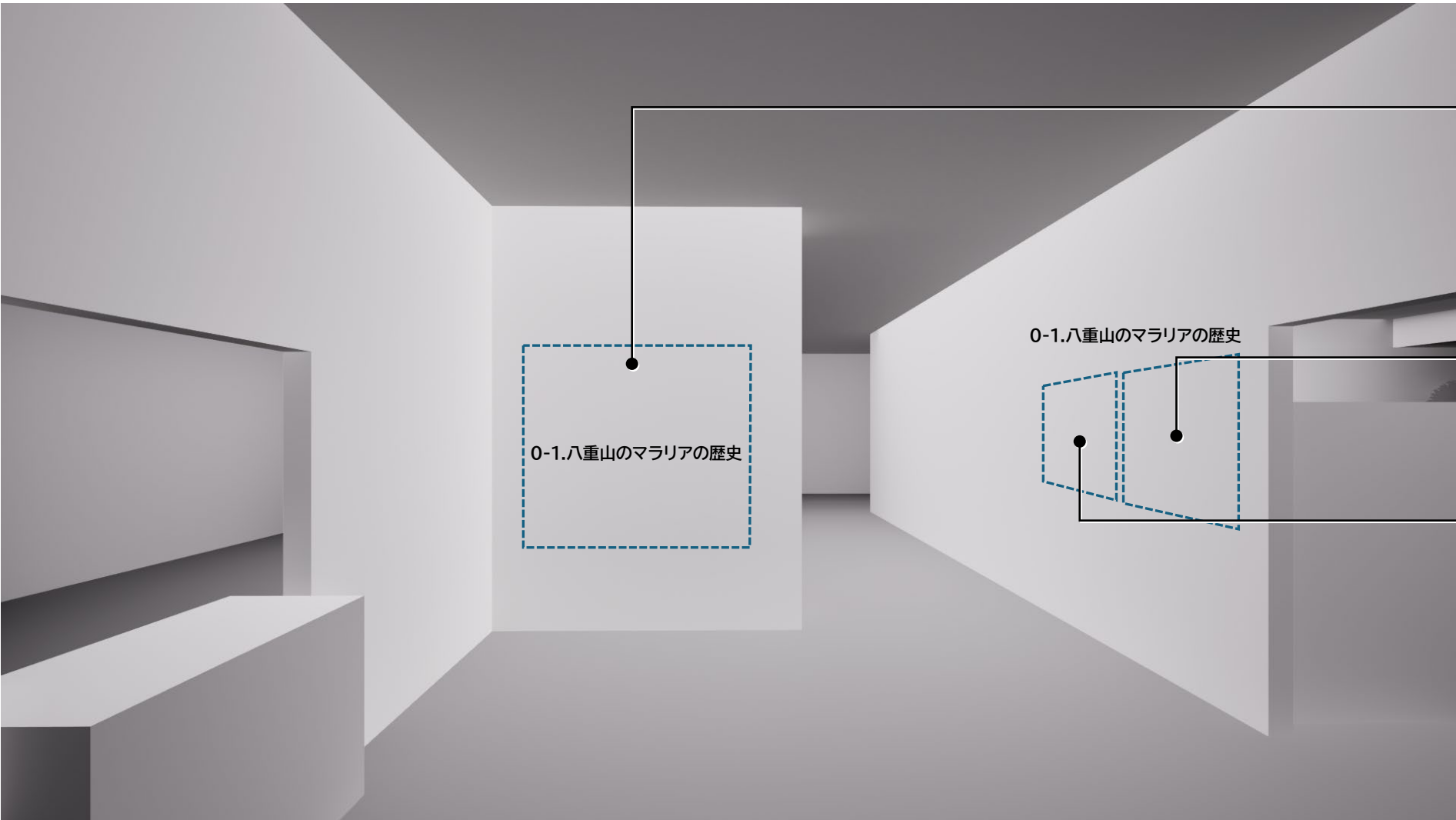
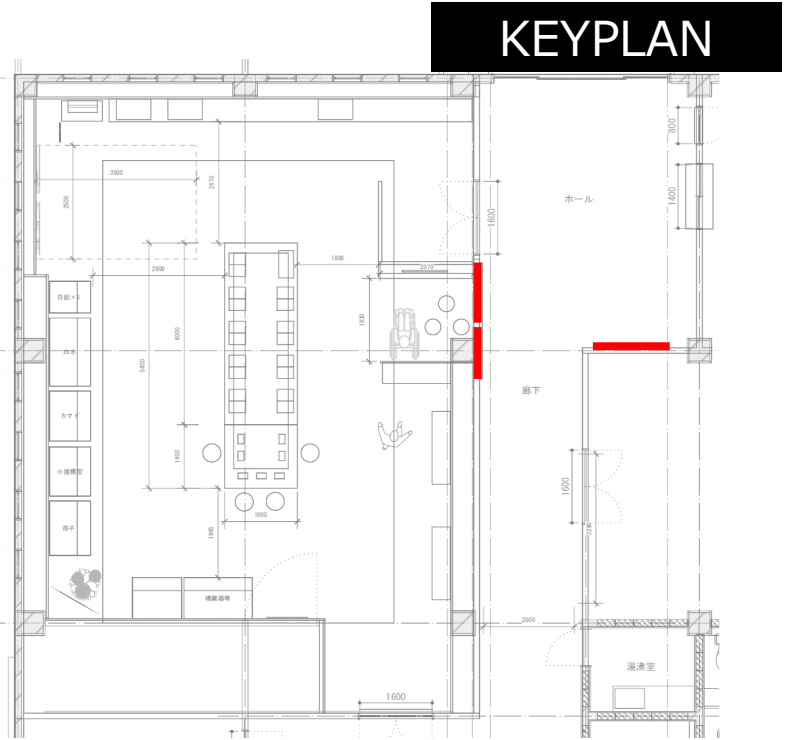
0.エントランス
0-1.八重山のマラリアの歴史

【展示のねらい】

- ・ 八重山で風土病とされていたマラリアの基本的な情報を伝えるとともに、沖縄戦における八重山の戦没者の多くが戦争マラリアによるものであることへの気づきを促す。

【展示の展開方針】

- ・ データと問いかけを活用し、八重山の戦争体験への関心を喚起する。
- ・ マラリアの基本的な情報と、八重山とマラリアの関係性をわかりやすく伝える。



- ・ 0-1-① 八重山の戦争とは？
グラフィック
(八重山とマラリアの関係を示す図解など)
- ・ 0-1-② マラリアとは？
グラフィック
(八重山とマラリアの関係を示す図解など)
- ・ 0-1-③ 八重山とマラリア
グラフィック
(八重山とマラリアの関係を示す図解など)

1.八重山と沖縄戦

1-1.中世から近代の八重山

1-2.列強国をめざす日本と八重山

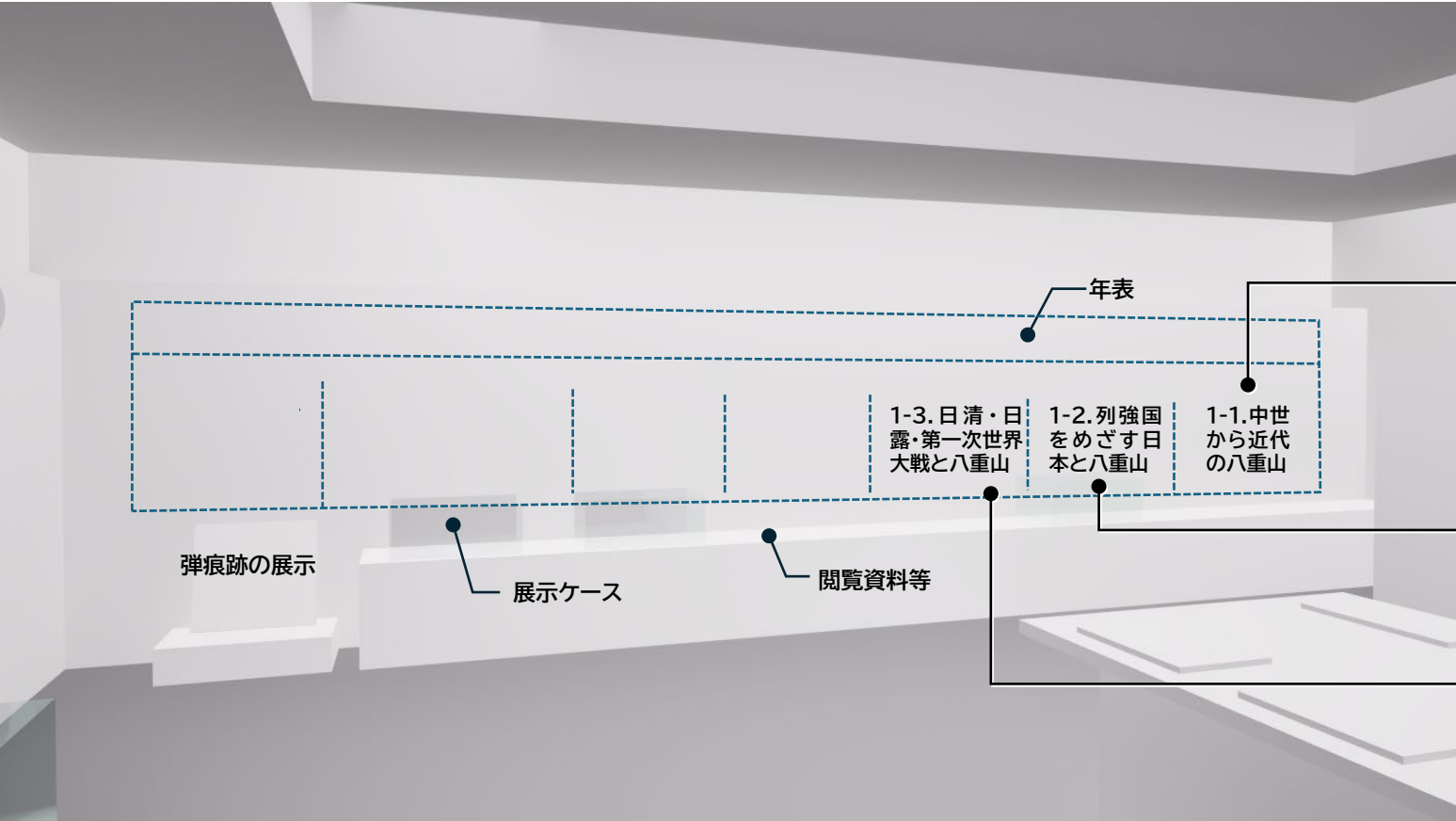
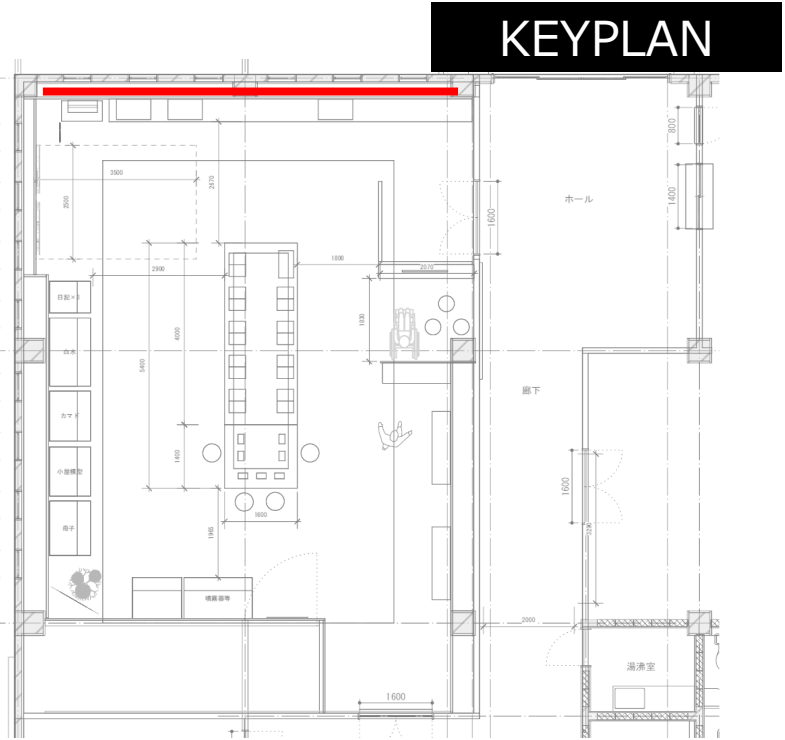
1-3.日清・日露・第一次世界大戦と八重山

【展示のねらい】

- ・ 八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・ 米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦までの流れがわかるように展示展開を行う。
- ・ 各項目の時系列がわかるようにグラフィックを工夫する。
- ・ 実物資料を精選し、展示展開を補完する役割を強める。



- ・ 1-1-① フーキ(風気)と称された八重山の風土病「マラリア」
- ・ 1-1-② 人頭税と強制移住政策
- ・ 1-1-③ 甚大な被害をもたらした「明和の大津波」
グラフィック
- ・ 1-2-① 牡丹社事件と台湾出兵
- ・ 1-2-② 琉球併合と分島・増約案
グラフィック・資料
(台湾出兵、琉球併合に関する図解、写真など)
- ・ 1-3-① 徴兵令の発布
- ・ 1-3-② 日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦
- ・ 1-3-③ 台湾の植民地化
- ・ 1-3-④ 西表炭坑
グラフィック
(日清戦争・日露戦争に関する写真、当時の植民地地図など)

1.八重山と沖縄戦

1-4.近代国家とマラリア

1-5.戦時体制と教育

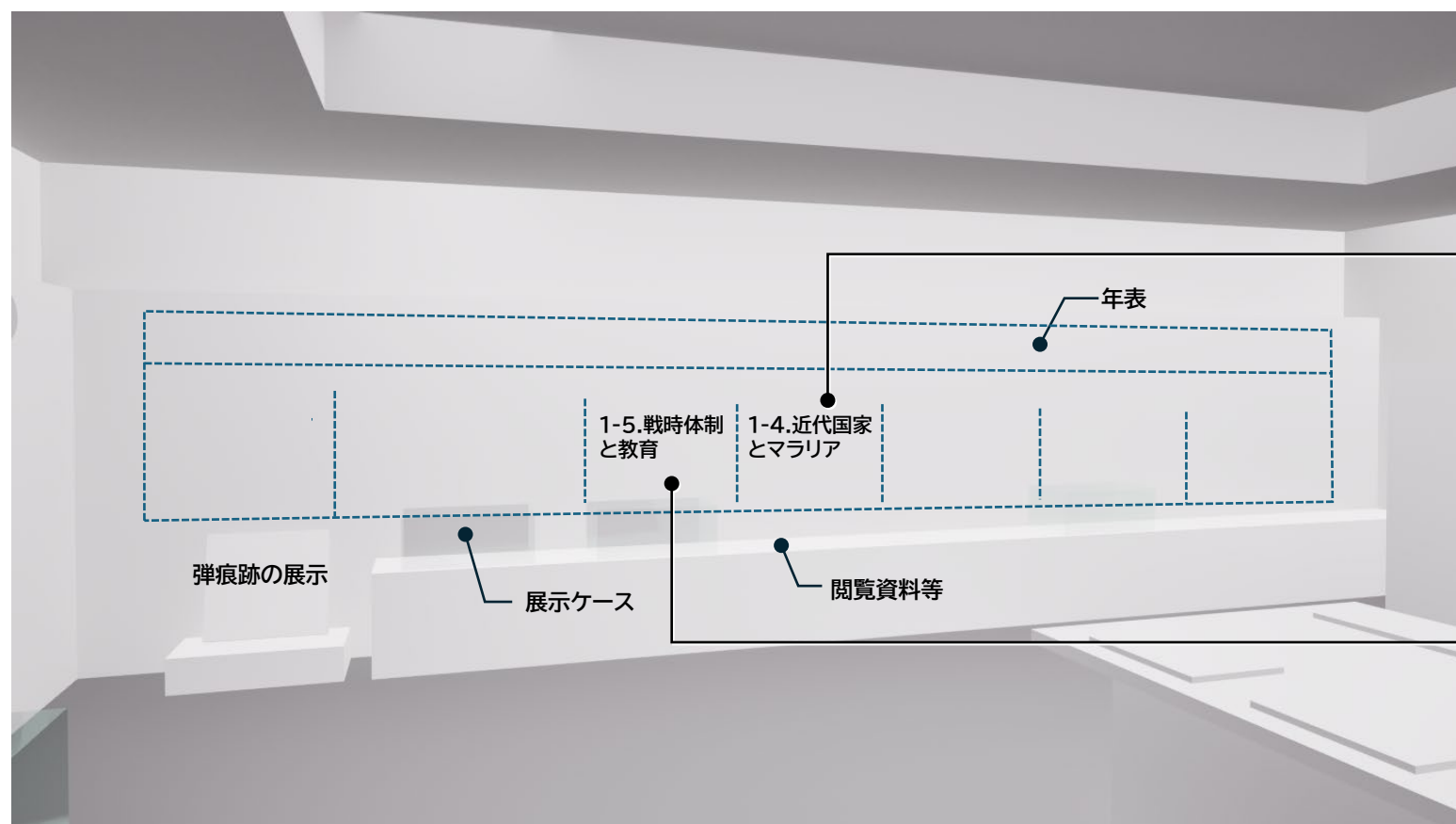
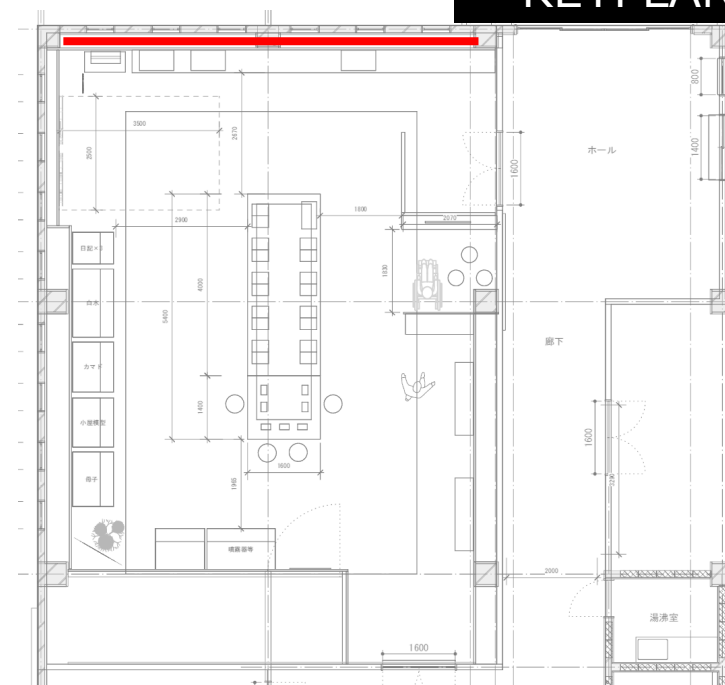
【展示のねらい】

- ・ 八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・ 米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦までの流れがわかるように展示展開を行う。
- ・ 各項目の時系列がわかるようにグラフィックを工夫する。
- ・ 実物資料を精選し、展示展開を補完する役割を強める。

KEYPLAN



- ・ 1-4-① 南西諸島調査とマラリアの「発見」
- ・ 1-4-② マラリア防遏への取り組み
- ・ 1-4-③ 人頭税の廃止(1903年)
- ・ 1-4-④ 日本の恐慌と八重山住民
グラフィック・資料
(『南島探検』『八重山群島瘴癘毒記』など)

- ・ 1-5-① 御真影、教育勅語の下賜
- ・ 1-5-② 国民学校と「国体護持」
- ・ 1-5-③ 弾圧される日本教育労働組合八重山支部
- ・ 1-5-④ 標準語励行運動
- ・ 1-5-⑤ 翼賛青年連盟与那国支部・大政翼賛会八重山支部の誕生
- ・ 1-5-⑥ 八重山から中国大陆へ
- ・ 1-5-⑦ 鳥居設置の奨励と戦争
グラフィック・資料
(教育勅語、誉の家札など)

1.八重山と沖縄戦

1-6.アジア・太平洋戦争と八重山ーすべては戦争のためにー

1-7.激しい空襲

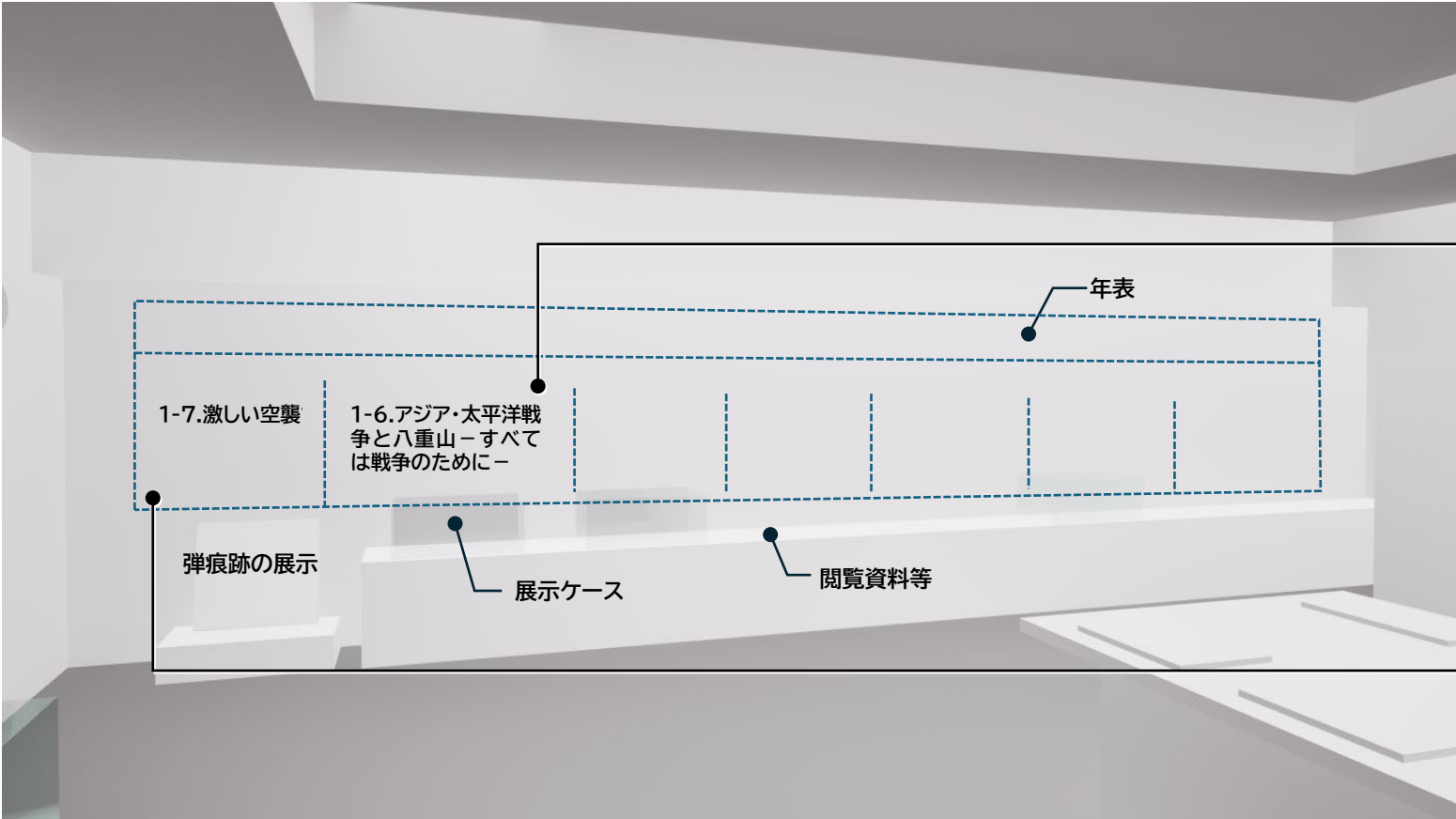
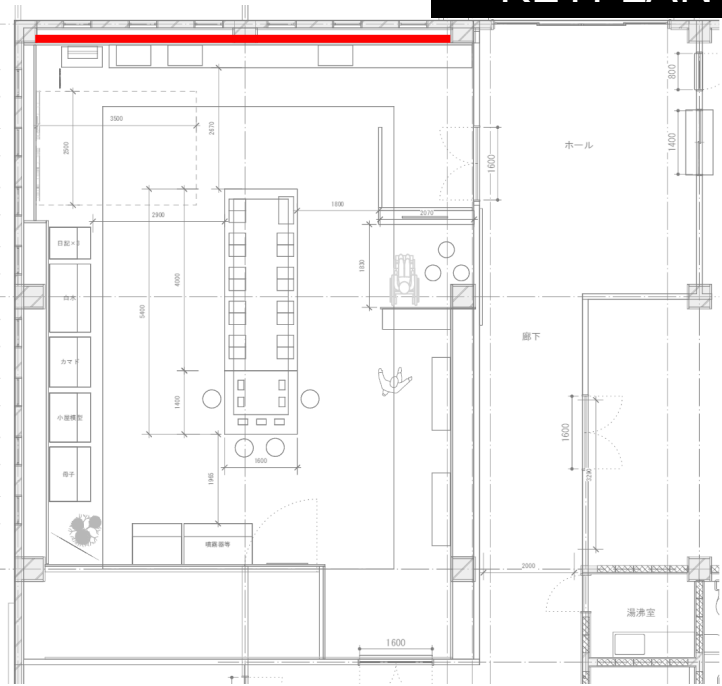
【展示のねらい】

- ・ 八重山を視座にすえ、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・ 米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲攻撃にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦までの流れがわかるように展示展開を行う。
- ・ 各項目の時系列がわかるようにグラフィックを工夫する。
- ・ 実物資料を精選し、展示展開を補完する役割を強める。

KEYPLAN



- ・ 1-6-① 大舩松市顕彰運動
 - ・ 1-6-② 船浮臨時要塞と第32軍
 - ・ 1-6-③ 陸軍中野学校出身者
 - ・ 1-6-④ 住民の根こそぎ動員
 - ・ 1-6-⑤ 朝鮮人軍夫
 - ・ 1-6-⑥ 慰安婦問題
 - ・ 1-6-⑦ 台湾、九州への疎開
 - ・ 1-6-⑧ 子どもたちの動員
 - ・ 1-6-⑨ 沖縄戦特攻作戦第1陣 石垣島から出陣
- グラフィック・資料
(米英に宣戦布告したことを伝える新聞、臨時召集令状、千人針、軍隊手帳など)

- ・ 1-7-① 沖縄島での戦闘の概要
 - ・ 1-7-② 激烈を極める空襲
 - ・ 1-7-③ みのかさ部隊
 - ・ 1-7-④ 船舶撃沈事件
 - ・ 1-7-⑤ 米軍捕虜虐殺事件
 - ・ 1-7-⑥ 空襲と御真影・教育勅語
- グラフィック・資料
(石垣島地方気象台の弾痕跡、みのかさ部隊の鉄かぶと(レプリカ)など)

2.戦争マラリアの実相

2-1. 強制避難の背景やねらい

2-2.八重山での強制避難による被害

2-3.避難地生活の実相

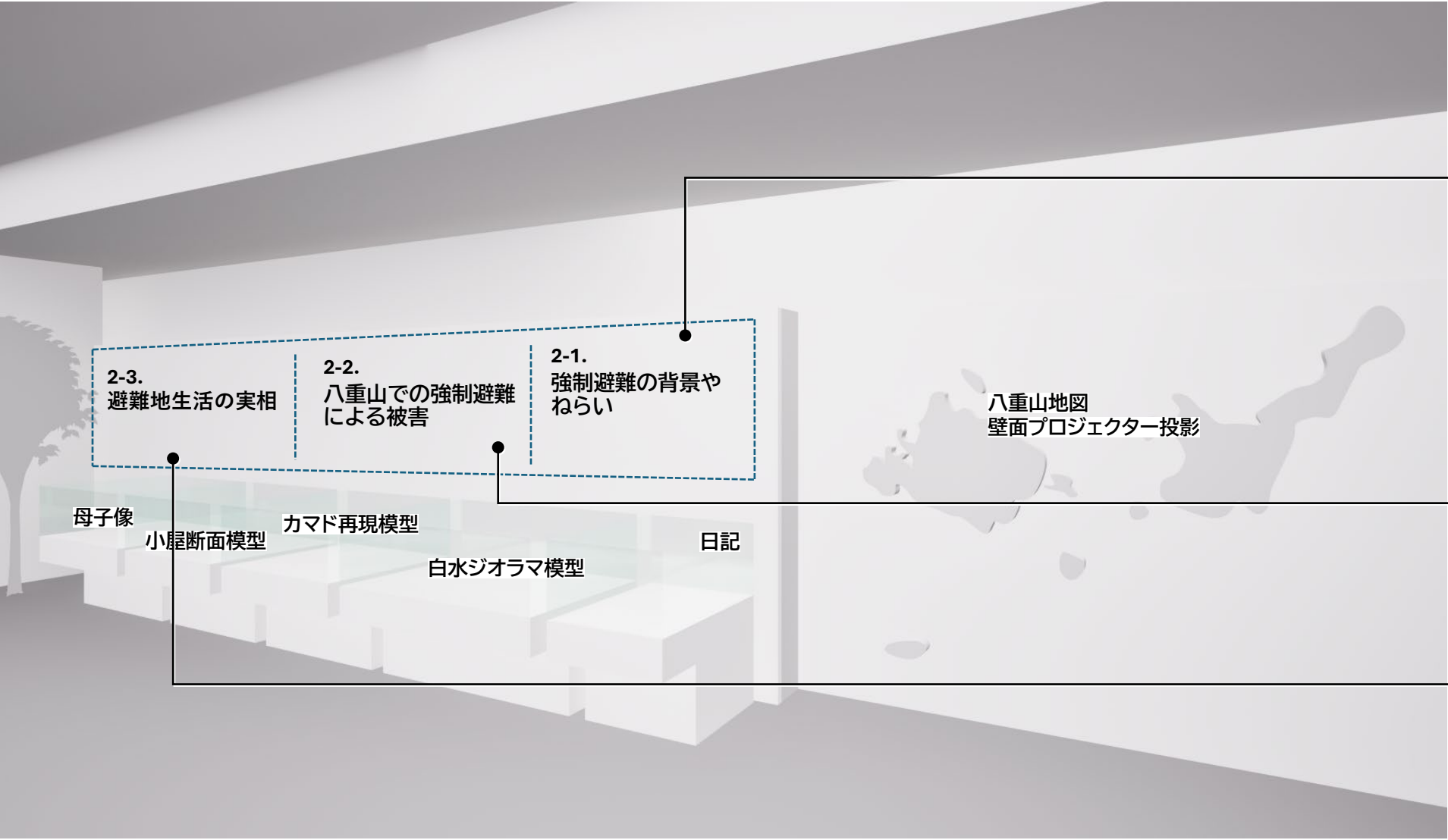
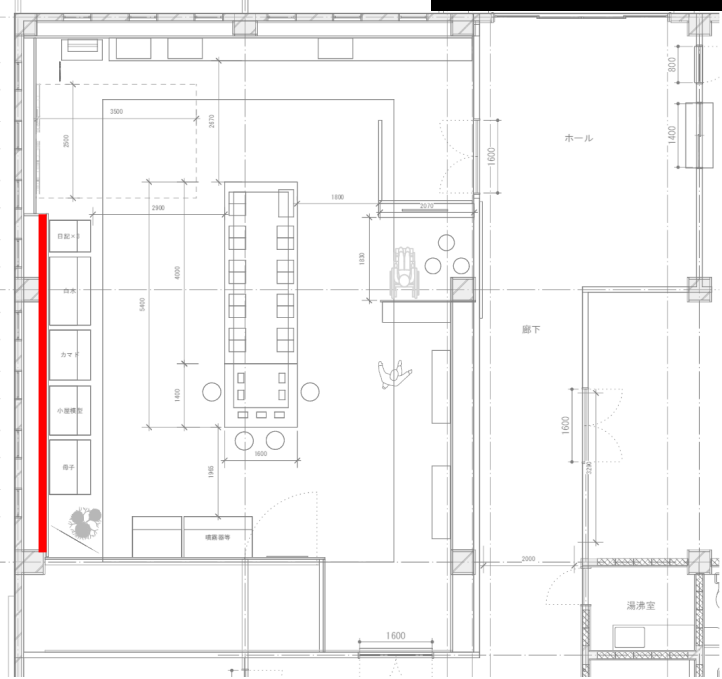
【展示のねらい】

- ・ 軍命による有病地への強制避難によって引き起こされた「戦争マラリア」の実相を伝える。
- ・ 食糧も薬もないなかで、住民たちがどのような暮らしを強いられたのかを伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 強制避難の実相を実物資料も用いて解説する。
- ・ 既存の模型を修繕して活用する。
- ・ 絵と模型で、避難地生活の実相をわかりやすく伝える。

KEYPLAN



- ・ 2-1-① 日本軍のマラリア認識
- ・ 2-1-② マラリア有病地への強制避難命令
- ・ 2-1-③ 強制避難命令のねらい
グラフィック・資料
(『八重山群島ノ衛生状況大要』、『県民指導措置八重山群細部計画』、東畑広吉参謀長の手記、潮平寛保氏の日記など)
- ・ 2-2-① 強制避難の概況
- ・ 2-2-② 波照間島住民と忘勿石
- ・ 2-2-③ 兵士たちのマラリア犠牲
- ・ 2-2-④ 戦争マラリアと戦争孤児
グラフィック・資料
(鉄田義司氏の日記、『波照間小学校沿革誌』など)
- ・ 2-3-① 避難地での食糧事情と居住環境
- ・ 2-3-② 戦争マラリアによる犠牲者
- ・ 2-3-③ 看病、埋葬の状況
グラフィック・模型
(白水戦争遺跡群ミニジオラマ、高熱に苦しむ母子像、カマド跡の模型、避難小屋の模型、潮平正道氏の絵など)

3.各島々の戦争

- 3-1.各島々の戦争の様子

3-2.証言/石垣島

3-3.証言/西表島

3-4.証言/波照間島

3-5.証言/竹富島
- 3-6.証言/小浜島

3-7.証言/鳩間島

3-8.証言/黒島

3-9.証言/新城島

3-10.証言/与那国島

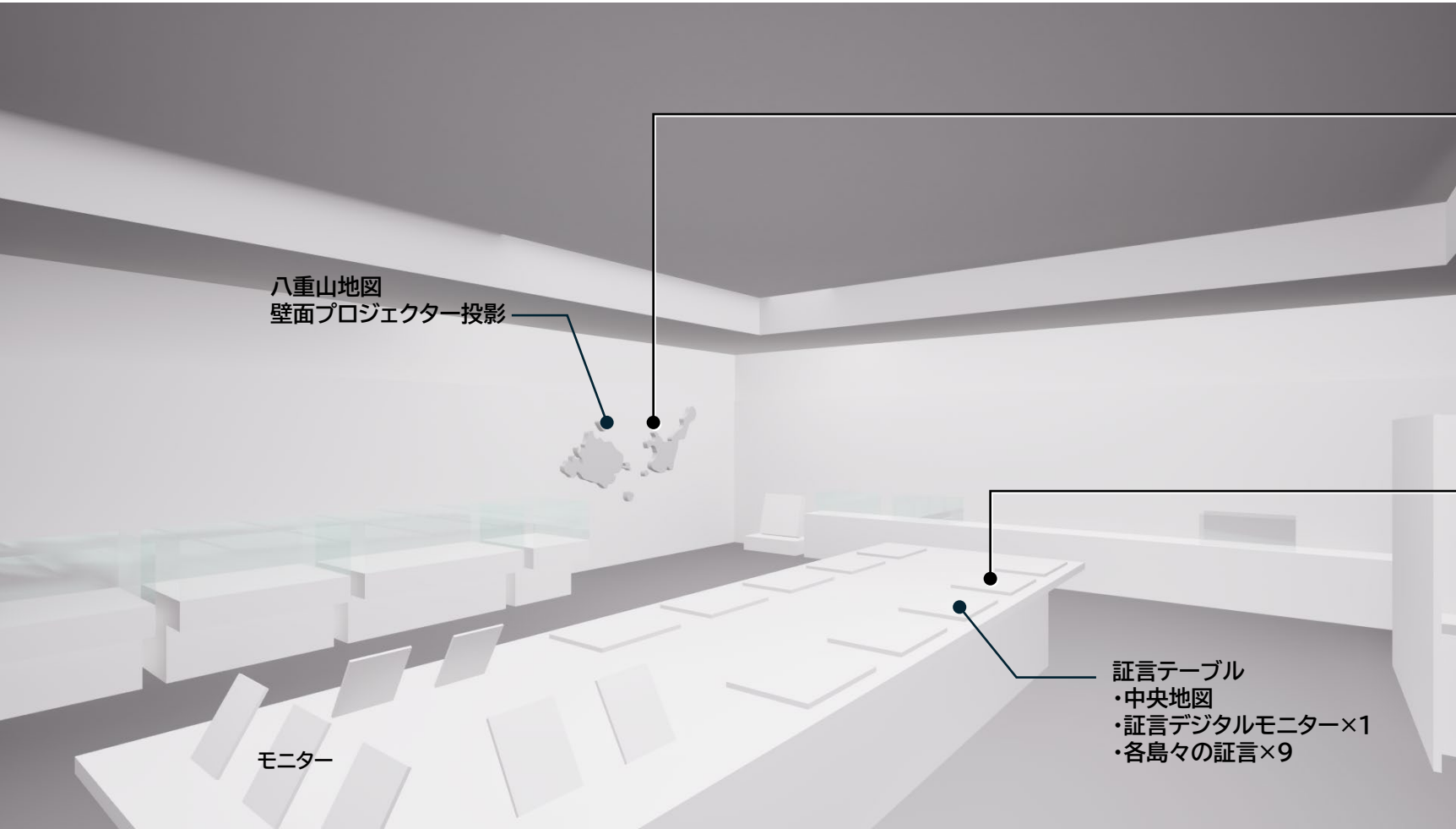
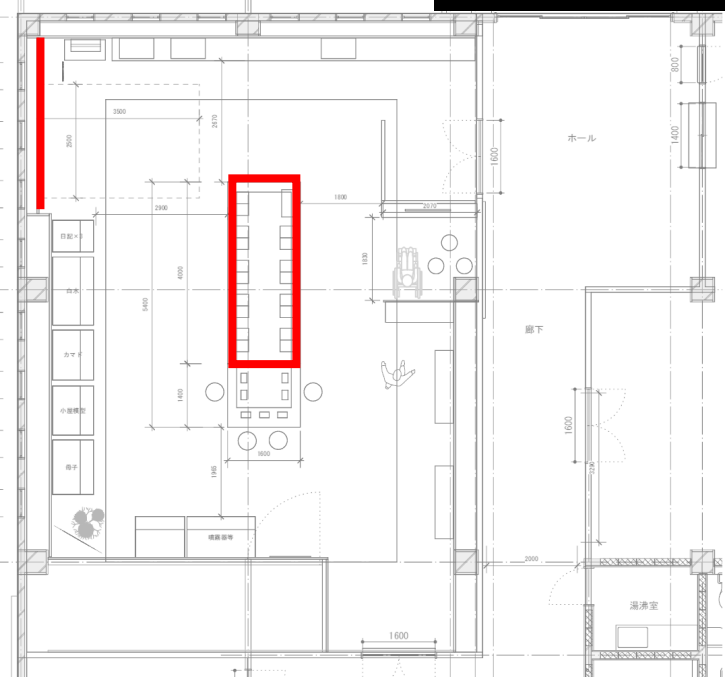
【展示のねらい】

- ・ 八重山の島々の沖縄戦時の状況を解説する。
- ・ 証言を通じて、戦争及び戦争マラリアの実相を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 八重山出身者の八重山以外での戦争体験も展示する。
- ・ 多言語対応の機器も設置する。

KEYPLAN



- ・ 3-1-① 漁船撃沈等周辺海域の状況
 - ・ 3-1-② 各島の戦争の状況
 - ・ 3-1-③ 各島の軍隊配備状況
 - ・ 3-1-④ 離島残置謀者と八重山
 - ・ 3-1-⑤ 各島の強制避難の状況
 - ・ 3-1-⑥ 強制避難を免れた島・竹富島
 - ・ 3-1-⑦ 各島の戦争及び「戦争マラリア」による犠牲者数
- グラフィック・映像装置
(八重山住民の避難場所を表す地図など)

- ・ 3-2-① 各島々の証言 石垣島
- ・ 3-3-① 各島々の証言 西表島
- ・ 3-4-① 各島々の証言 波照間島
- ・ 3-5-① 各島々の証言 竹富島
- ・ 3-6-① 各島々の証言 小浜島
- ・ 3-7-① 各島々の証言 鳩間島
- ・ 3-8-① 各島々の証言 黒島
- ・ 3-9-① 各島々の証言 新城島
- ・ 3-10-① 各島々の証言 与那国島

グラフィック・資料
(各島々の証言記録、旧日本軍の茶碗、石垣会の旗、海軍飛行予科練習生夏服、モンペ、沖縄戦の絵「与那国島カツオ工場への空襲」金城マツエ画など)

4.八重山の戦後と復興

4-1.戦後の八重山とマラリア撲滅

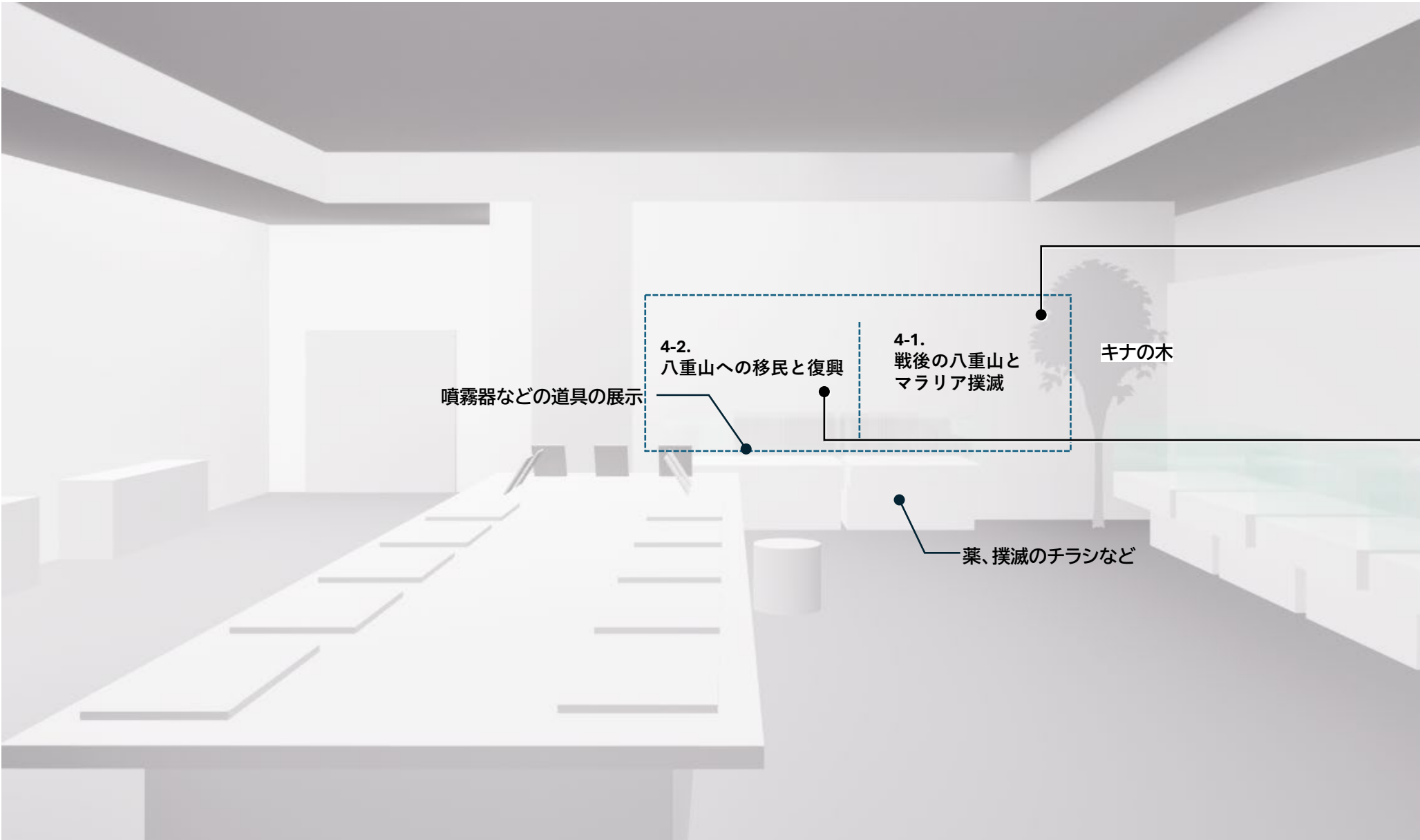
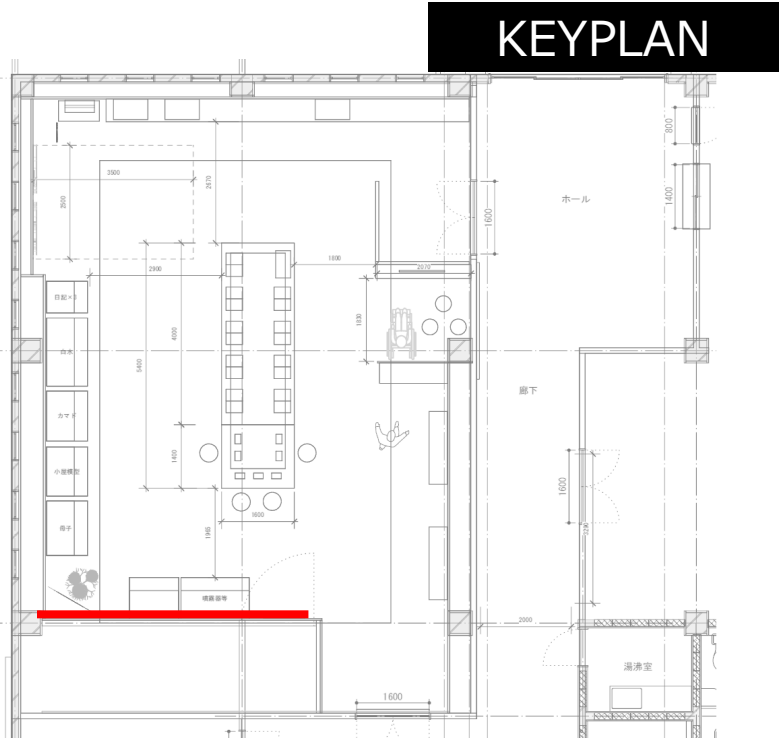
4-2.八重山への移民と復興

【展示のねらい】

- ・ 八重山において戦後がどのように始まったのか、その中で取り組まれたマラリア対策とその成果に触れるとともに、引揚げによる人口増加、沖縄島の米軍基地建設に伴う移民の増加などにより、マラリアが再流行したこと、その後のマラリア撲滅までの取り組み等を紹介する。
- ・ 復興に向かう八重山の状況について紹介する。

【展示の展開方針】

- ・ マラリア撲滅までの流れが理解できるような展示展開にする。
- ・ 戦後の復興について、米国の政策とともに住民の取り組みも伝える。



- ・ 4-1-① 八重山の戦後の始まり
- ・ 4-1-② 引揚げと移民
- ・ 4-1-③ 戦後直後のマラリア対策とその成果
- ・ 4-1-④ 米軍基地建設等に伴う移民の増加、森林開拓等によるマラリア再燃
- ・ 4-1-⑤ WHOによるマラリア根絶計画の公表
- ・ 4-1-⑥ ウィラップランの展開
グラフィック・資料
(アテプリン、マラリア防遏のチラシ、マラリア対策に使用された機器類、キナの木(枯木)など)
- ・ 4-2-① 沖縄島や宮古島等からの移民の実態
- ・ 4-2-② 八重山からの人口流出と移住者の流入
- ・ 4-2-③ 「密貿易」と復興
- ・ 4-2-④ 八重山自治政府
- ・ 4-2-⑤ 八重山における文芸復興の動き
- ・ 4-2-⑥ 米国民政府の復興政策
- ・ 4-2-⑦ とうばらーま大会(昭和22年から)
グラフィック・資料
(移住者の生活用具、文化復興を示す書籍など)

5.戦争マラリア援護会の活動

5-1.沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会の発足とその活動

5-2.慰藉(いしゃ)事業の概要

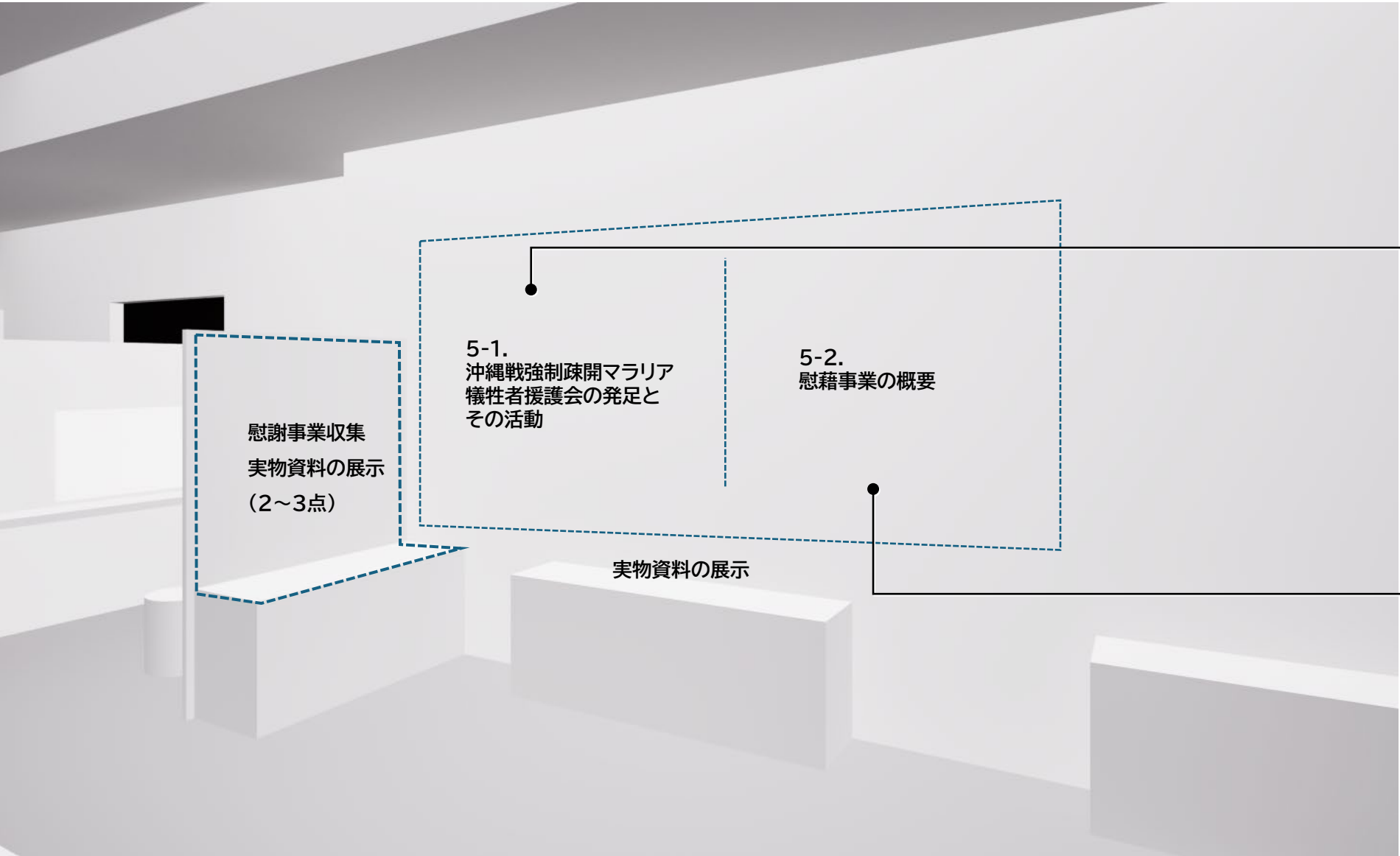
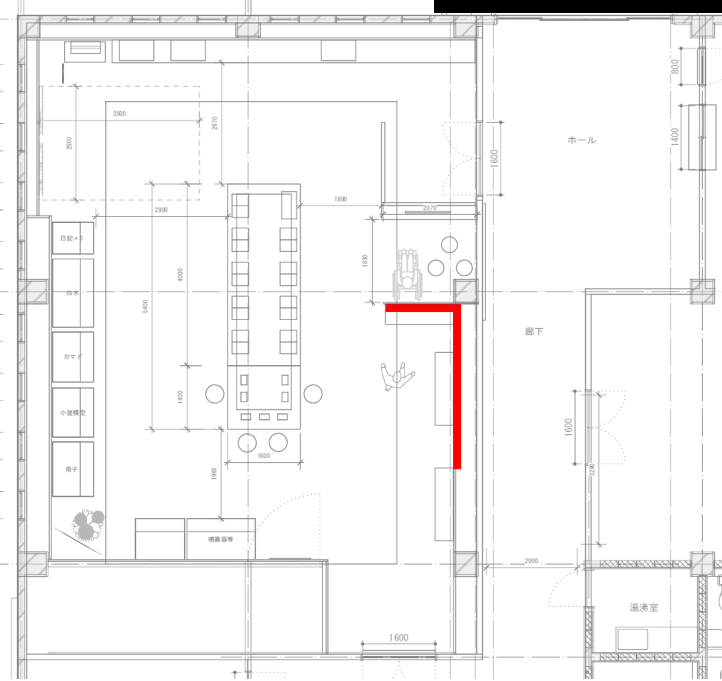
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会発足の経緯とその活動について伝えるとともに、その活動の成果として、慰霊碑や八重山平和祈念館が設置されたことなどについて伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 既存の展示資料を活用する。
- ・ 援護会の取り組みの流れが理解できるように工夫する。

KEYPLAN



- ・ 5-1-① 総決起大会
- ・ 5-1-② 陳情活動
- ・ 5-1-③ 追悼式の開催
- ・ 5-1-④ 篠原武夫教授が援護会活動を始めるきっかけとなった『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館ガイドブック』グラフィック・資料
(援護会の活動を示す資料、『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館 ガイドブック』など)

- ・ 5-2-① 八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑の建立
- ・ 5-2-② 「八重山平和祈念館」の設立
- ・ 5-2-③ 『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌－』の発行
グラフィック・資料
(慰霊碑と同じ材料で作られた石、『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌』など)

6.八重山から平和を発信

6-1.戦争体験の継承

6-2.マラリア撲滅と平和構築

6-3.平和共生と交流の最前線 国境の島八重山

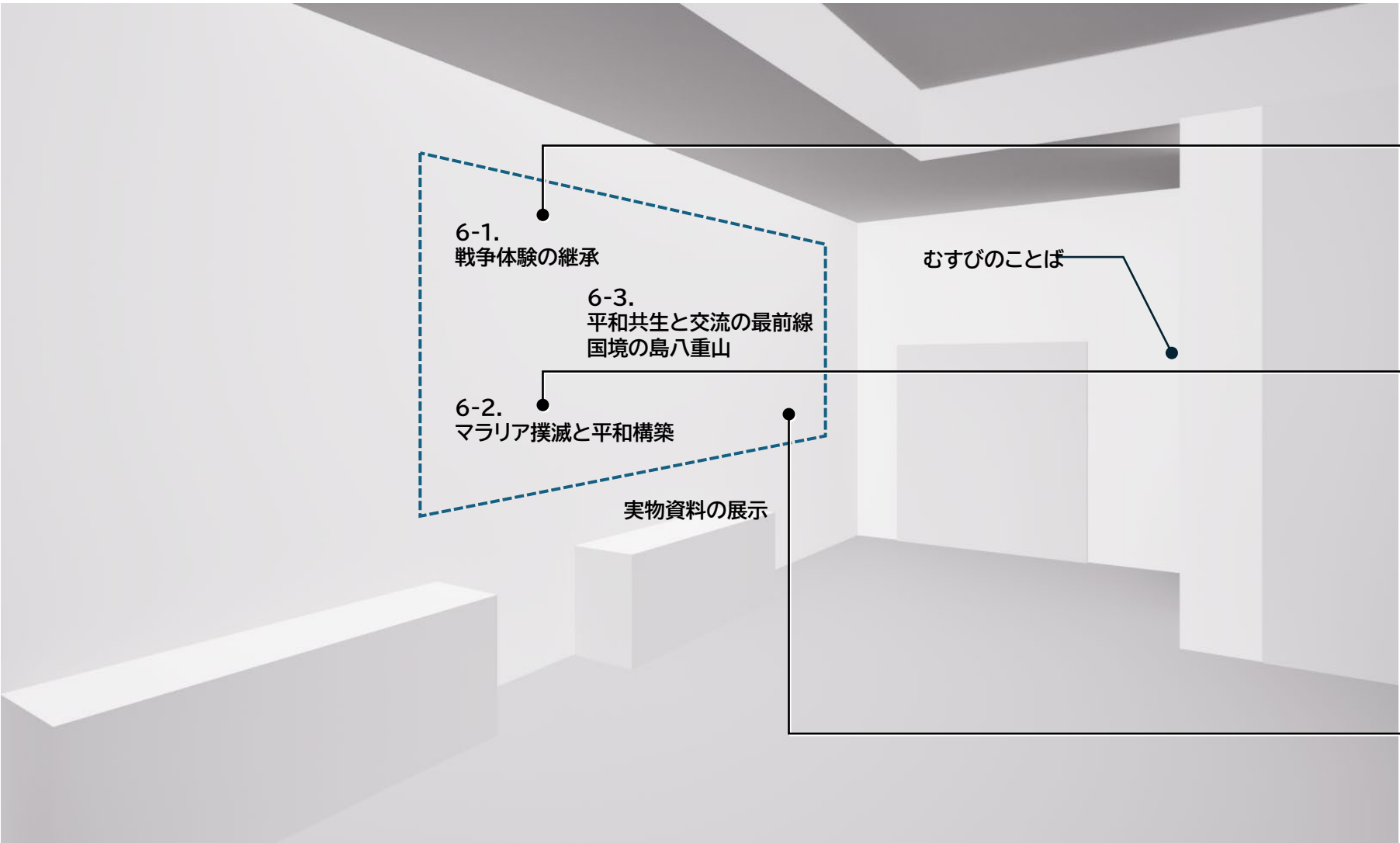
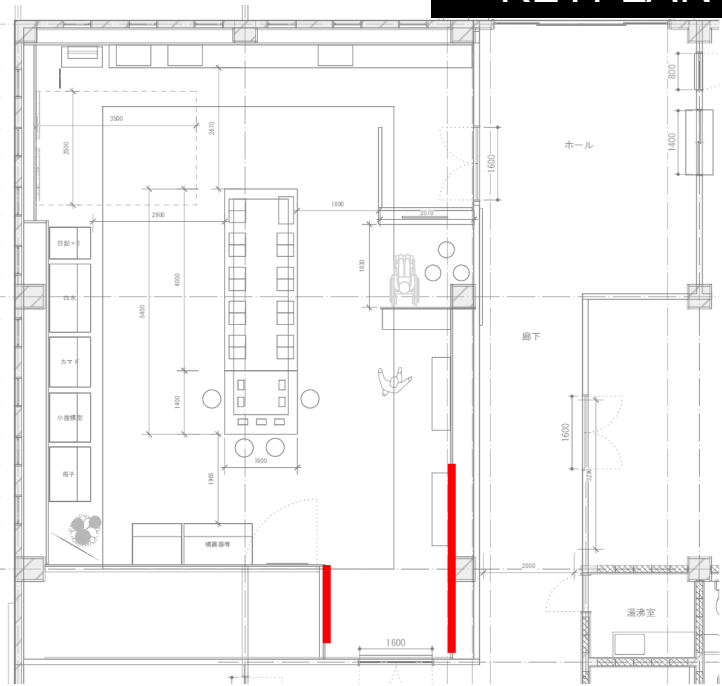
【展示のねらい】

- ・沖縄戦、そして、「戦争マラリア」を経験した八重山から日本に、そして世界に平和のメッセージを発信する。
- ・八重山における平和創造に関する活動や取り組みを紹介する。

【展示の展開方針】

- ・展示全体を振り返るように工夫する。
- ・戦争マラリアの記憶を継承してきたこれまでの取り組みを紹介する。
- ・現在の世界で続くマラリア撲滅の取り組みと八重山の経験をつなげて考えられるようにする。
- ・国境の島だからこそできる平和創造の取り組みを伝える。

KEYPLAN



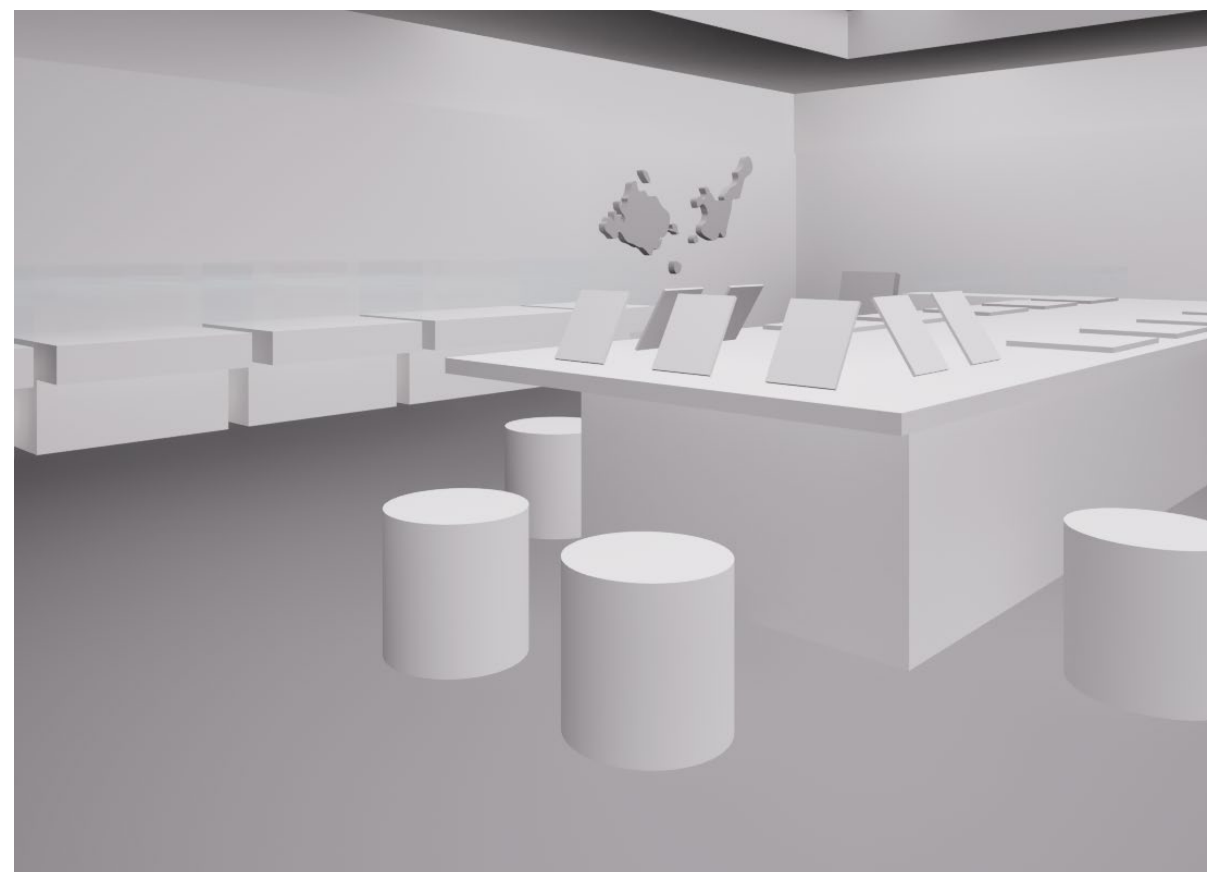
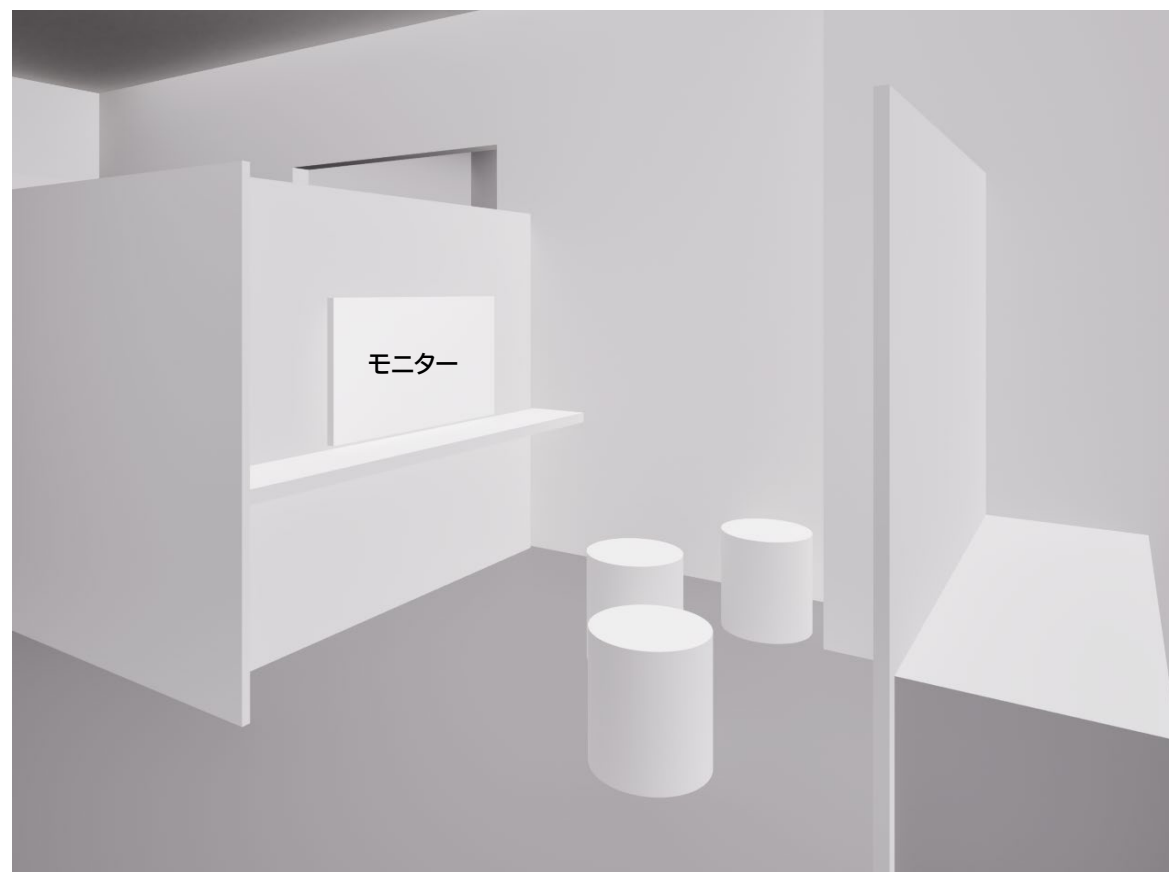
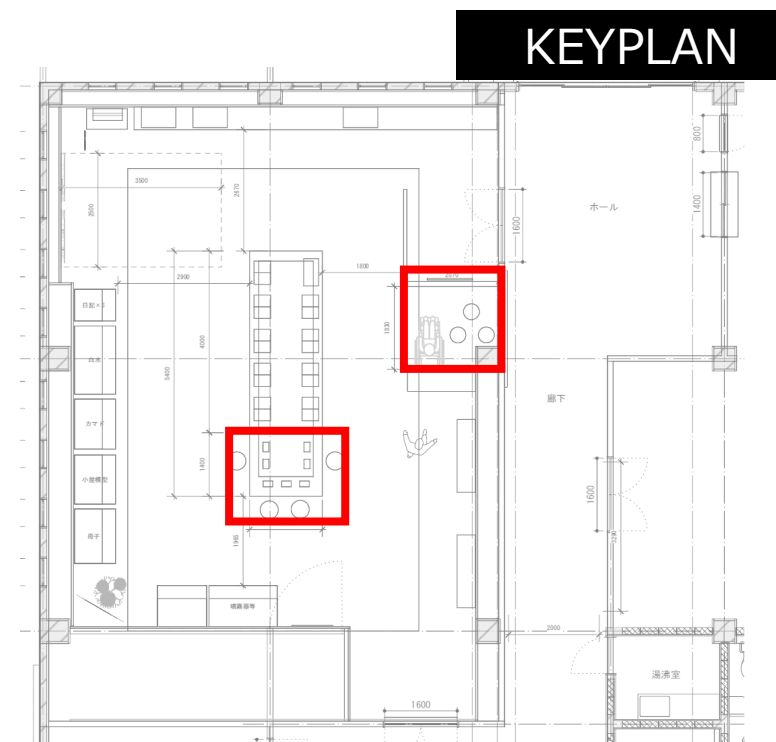
- ・ 6-1-① むすびのことば
- ・ 6-1-② 戦争体験継承への取り組み
- ・ 6-1-③ これまでに建立された慰霊碑(モニュメント)の紹介
グラフィック・資料
(戦争体験の継承を示す写真、八重山諸島内の慰霊塔の写真など)
- ・ 6-2-① マラリア×紛争 世界地図
- ・ 6-2-② マラリア有病地の課題(インフラ・公衆衛生など)
- ・ 6-2-③ マラリア撲滅と八重山(ゼロマラリアの碑、当館でのJICA研修
受け入れなど)
グラフィック
(八重山を中心とした地図、八重山と台湾のつながりを示す写真、八重山と海外との交流を示す写真など)
- ・ 6-3-① 八重山を中心に広がる地図(近隣地域との位置関係)
- ・ 6-3-② 八重山と台湾の関係史
- ・ 6-3-③ 八重山における国際交流
グラフィック
(世界のマラリア分布図、現代におけるマラリア対策の写真など)

・ 7-1.動画視聴コーナー

・ 7-2.図書閲覧・アンケートコーナー

【展示の展開方針】

- ・ 複数名が同時に映像を視聴できるブースを設置する。
- ・ 既存の図書や、大項目6で展示されている資料が閲覧できるようにする。
- ・ アンケート記入のスペースとしても活用する。



全館共通

空間計画

①快適で安全に展示を観覧できる空間づくり・動線の設定

- ・ 来館者が展示の意図した流れに沿ってスムーズに移動できるよう、空間構成を工夫し、直感的に理解できる動線を設定する。
- ・ 団体客など多数の来館者が同時に利用する状況に対応するため、適切な滞留スペースや動線の設定、滞留時間を踏まえた空間構成を行い、混雑時でも快適に鑑賞できる環境づくりを計画する。
- ・ 車椅子利用者を含むすべての来館者が安全に移動できるよう、適切な通路幅を確保するとともに、緊急時に迅速な避難が可能となる経路計画を整備する。

②多様な来館者を想定した展示の視認範囲の設定

- ・ 子どもから大人、車椅子利用者の視点の高さに配慮し、すべての来館者が快適に鑑賞できるよう展示物の適切な視認範囲を計画する。

③博物館疲労を軽減するための配慮

- ・ 展示室内の移動や膨大な情報量にふれることで生じる博物館疲労を抑え、快適に鑑賞を続けられるよう、展示空間の要所にベンチなどの休憩機能を整備することを検討する。

解説グラフィック計画

①研究成果の蓄積を踏まえた表記内容の見直し・更新

- ・ 開館から26年の間に明らかになった歴史的事実や、『沖縄県史』をはじめとする沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史等に関する最新の調査・研究成果を踏まえて解説内容を見直すとともに、必要な情報の追加、表記や用語等の統一を行い、正しい情報を提供する。

②すべての来館者にとってアクセシビリティの高い解説の実現

- ・ 基本構想・基本計画に基づきSDGs の理念に配慮した展示更新とするため、解説文章については、専門用語を多用せず、簡潔でやさしい表現とすることを基本とする。
- ・ 来館者の状況を踏まえ、英語等主要言語による翻訳、視覚的に理解を補助するイラストや写真、図表の活用、文字サイズ、フォント、文字色のコントラストへの配慮など、全館でアクセシビリティの高い解説を目指す。

③基礎知識をあまり持っていない層、より専門的に学びたい層の双方に対応

- ・ 基本構想・基本計画に基づき平和について学習する場の充実を図るため、基礎的な内容を提供する解説に加え、より深く詳細な情報を提供する専門性の高い解説を用意するなど、多層的な情報提供を行う。

デジタル技術の活用

①デジタル技術の導入

- ・ 3Dなどの立体映像を活用した展示や、AR(拡張現実)、VR(仮想現実)、プロジェクションマッピングなどの先端技術の導入、来館者の利便性向上のため、携帯端末のアプリケーションによるガイダンス等、ICT技術の導入も含め、展示手法を検討する。

②デジタル解説装置の導入

- ・ 他施設で活用が進むデジタル解説装置やアプリには、タッチスクリーン等により来館者一人一人が自分のペースで理解を深められ、写真や動画を含む多層的な情報を提供できる利点があることから、QRコードを活用した音声解説ガイドを基本に、デジタル解説装置の導入を検討する。
- ・ デジタル解説装置の導入にあたっては、耐久性やメンテナンス性などの課題を十分に検証する。

③すべての来館者にとってアクセシビリティの高い解説の実現

- ・ 日本語を母語としない人向けの多言語による字幕解説や手話動画による解説の導入を検討する。
- ・ 提供する言語については、現在の多言語解説の利用状況等も踏まえて、検討する。

展示ケースの設計

①大切な資料を守るために必要な機能を整備

- ・ 材質や形状などの展示資料の性質に応じて、物理的損傷や温湿度・紫外線・虫害などの環境要因、さらに盗難・破壊・地震といった多様なリスクを総合的に考慮し、大切な資料を守るための適切なケース設計を行う。

②資料の入れ替えのしやすさ・展示の更新性に配慮

- ・ 展示ケースの設計にあたっては、開閉のしやすさにも配慮し、資料の設置や移動、日常的なメンテナンス等が容易で、かつ資料の入れ替え作業時の安全性、快適性を備えたケース設計を行う。
- ・ 開館後の展示更新を想定し、展示物の入れ替えのしやすさに加え、汎用性、展示ケースの移動や追加等のしやすさにも考慮する。

③誰にとっても資料が見やすい鑑賞性に配慮

- ・ 現状では子どもたちや車椅子利用者等が資料を鑑賞しづらい展示ケースがあり、今回の展示更新により改善が求められている。展示ケースの形状、ガラス面の高さや幅、照明の配置等を工夫し、誰もが鑑賞しやすい環境を整備する。